

授業科目名： 倫理学	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大岡紀理子
			配当学年：一部2年
			担当形態：講義
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	—		
担当教員の実務経験	—		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>倫理学とは、人間の生き方を探究する学問である。現代は、様々なことが加速度的に変化する時代であり、物事を考えるときには、それぞれの状況や場面に応じて、多角的に捉えて判断する必要性が増している。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、重要なテーマでありながら、これまで真剣に向き合う機会の少なかったと考えられる課題や問題を取り上げ、その理解を深める。また、学生が主体になって熟考し、議論する場も持つ。この授業で学び得たことや経験が生かされ、今後、社会において個々人が様々な問題に直面した際に、自ら考え、責任を持った言動をし、しっかりと乗り越えていくことを切望する。</p>			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 倫理学とは 2 世界の現状について 3 社会と倫理について 4 命と食について 5 子どもの権利条約について 6 赤ちゃんポストについて 7 代理母について 8 児童虐待について 9 いじめについて 10 死刑制度について 11 動物実験について 12 臓器移植について 13 出生前診断について 14 安楽死について 15 まとめとテスト 			
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業内で適宜紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>試験70% と平常点30%で総合的に評価する。</p>			

授業科目名： 教育学	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名：大岡紀理子 配当学年：一部1年 担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	教養科目（外国語、体育以外の科目）		
担当教員の実務経験	—		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>教育の基礎的概念・理論・歴史・思想等について学び、教育の意義・目的を理解する。そして、現在の教育の諸課題に関する基礎的な内容について、理解することを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>「教育とは何か」、「教育は何をめざすか」という教育の意義や目的、人間の成長・発達について、基本的な内容を理解する。また、西欧及び日本における教育の理念や思想の歴史の変遷を踏まえるとともに、現在の日本の教育について多様な観点から考察する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 教育の意義と目的</p> <p>第3回 教育の歴史(1)（「子どもの誕生」）</p> <p>第4回 教育の歴史(2)（家庭教育・学校教育）</p> <p>第5回 諸外国の教育理論</p> <p>第6回 日本の教育理論</p> <p>第7回 教育の制度</p> <p>第8回 教育の方法とカリキュラム</p> <p>第9回 教育に関する思想(1)（コメニウス、ロック、ルソー）</p> <p>第10回 教育に関する思想(2)（ペスタロッチ、フレーベル）</p> <p>第11回 教育に関する思想(3)（ヘルバルト、デューイ、モンテッソーリ）</p> <p>第12回 教育の諸課題(1)（求められる教員像と教員評価）</p> <p>第13回 教育の諸課題(2)（学級課題とその背景）</p> <p>第14回 教育の諸課題(3)（日本・諸外国の教育改革動向）</p> <p>第15回 まとめ・テスト</p>			
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業内で適宜紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>試験70%と平常点30%で総合的に評価する。</p>			

授業科目名： 日本国憲法	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名： 宮田 史彦
			配当年次：一部1年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	教養		
保育士養成課程の区分	教養		
担当教員の実務経験			
授業の到達目標及びテーマ			
<p>保育者としてふさわしい資質を身につけるため、日本国憲法を学び、人権保障や国政のしくみについて理解を深めます。講義では①日本国憲法の全体構造を把握し、②基本的人権の意義を理解することで人権感覚を養い、思いやりと奉仕の精神をもって、保育・幼児教育の実践にあたるとともに、③社会における諸問題に対して、自分なりの考えを持てるようにします。</p>			
授業の概要			
<p>日本国憲法の成立とその理念について概説し、基本的人権（平等権・自由権・社会権等）の特性や問題点について、条文の解釈に触れながら、私たちの身のまわりで生じている事象や判例を通じて検討します。また、人権保障のための統治機構（国会・内閣・裁判所）の機能や平和主義を基調とする安全保障についても解説します。</p>			
授業計画			
第1回： 憲法と立憲主義：法体系と憲法の位置づけ、および立憲主義の意味について			
第2回： 日本国憲法の成立過程と基本原理：大日本帝国憲法と日本国憲法			
第3回： 基本的人権の原理：人権の主体と人権の諸形式			
第4回： 幸福追求権と自己決定権：憲法 § 13 と新しい人権			
第5回： 法の下での平等：憲法 § 14 に関して			
第6回： 自由権Ⅰ：思想・良心の自由、信教の自由			
第7回： 自由権Ⅱ：学問の自由、表現の自由			
第8回： 自由権Ⅲ：経済活動の自由			
第9回： 社会権Ⅰ：生存権			
第10回： 社会権Ⅱ：教育を受ける権利			
第11回： 社会権Ⅲ：労働基本権			
第12回： 統治機構Ⅰ：国会（立法権）・内閣（行政権）、地方自治			
第13回： 統治機構Ⅱ：裁判所（司法権）			
第14回： 平和主義と安全保障：憲法 § 9 と憲法改正論議			
第15回： 講義の振り返り、期末試験とまとめ			
テキスト			
<ul style="list-style-type: none"> ・橋本勇人 編『保育と日本国憲法』（みらい社）ISBN978-4-86015-460-8 ・各講義で配付する講義プリントおよび資料 			
参考書・参考資料等			
<ul style="list-style-type: none"> ・池上彰 著『超訳 日本国憲法』（新潮社）ISBN978-4-10-610613-2 ・幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） ・保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 			
学生に対する評価			
<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験：70% ・受講姿勢：授業内で提示する課題（レポート）提出状況、参加態度 30% 			

授業科目名： 情報機器の操作	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (演習)	担当教員名： 脇 みどり
			配当学年：一部2年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	—		
担当教員の実務経験	—		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>保育士、幼稚園教諭業務に必要な基本的PCスキルを身につけます。園だよりなど想定される業務内容に応じた課題の作成を通して、文書作成（Word）、数値処理（Excel）、プレゼンテーション（PowerPoint）の基本スキルを習得します。加えて、現代社会に広がる多数の情報から、必要とする情報を的確に収集・判断・評価・発信する能力「情報リテラシー」の基本を学習します。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業では基本的にPCを使いながら、以下のステップに従って学習します。</p> <p>ステップ1（Word）：文章作成、編集に関する基本スキルの習得</p> <p>ステップ2（Excel）：データ記録、分析に関する基本スキルの習得</p> <p>ステップ3（Power Point）：ポスター作成やプレゼン資料に関する基本スキルの習得</p> <p>ステップ4（情報リテラシー）：ICT利活用と情報の見極めに関する知見の理解・把握</p>			
<p>授業計画</p> <p>1 オリエンテーション</p> <p>2 PC基本操作 Officeソフト説明 現代社会と情報</p> <p>【ステップ1（Word）】</p> <p>3 基本機能の確認と操作</p> <p>4 体裁・レイアウト</p> <p>5 図表の挿入と編集① 図形の組み合わせ、配置、編集</p> <p>6 図表の挿入と編集② 表の作成、配置、編集</p> <p>7 さまざまな機能の活用（グリッド線、ぶら下げ、ヘッダーとフッター、段組みなど）</p> <p>8 課題演習Ⅰ：「園だより」の作成</p> <p>【ステップ2（Excel）】</p> <p>9 基本機能の確認と操作</p> <p>10 基本関数の操作（SUM、AVERAGEなど）</p> <p>11 グラフの作成（集合縦棒から散布図まで）</p> <p>12 ExcelデータのWord利用</p>			

- 1 3 データ分析・読解の基礎（代表値の性質、ばらつき、分布など）
- 1 4 課題演習Ⅱ：「園児名簿」の作成
- 1 5 前期まとめ

【ステップ3（Power Point）】

- 1 6 基本機能の確認と操作
- 1 7 レイアウト、配色、オブジェクトの編集
- 1 8 アニメーションとエフェクト
- 1 9 図表の作成と画像の取り込み・挿入
- 2 0 「園のお祭り」ポスター作成
- 2 1 動画作成と素材の利用に関する注意点
- 2 2 Officeまとめ 情報の配置や印刷
- 2 3 課題演習Ⅲ：「遠足のしおり」の作成
- 2 4 課題演習Ⅳ：「園での生活紹介（プレゼン資料）」の作成

【ステップ4（情報リテラシー）】

- 2 5 ICTの利活用と課題① ウェブアプリ
- 2 6 ICTの利活用と課題② 情報倫理とセキュリティ
- 2 7 情報リテラシー① 認知バイアスと情報
- 2 8 情報リテラシー② 情報を吟味し見極める（クリティカルシンキング）
- 2 9 課題演習Ⅴ：最終課題の作成
- 3 0 全体まとめ

状況によって、授業内容を変更することがあります。

テキスト

特に指定しません。教員が資料を配布します。

（資料はデータ配布します。受講者は各自USBメモリなどのデータ保存用デバイスを準備してください。メーカー等自由、容量は8GB程度で十分です）

参考書・参考資料等

阿部正平ほか（2018）『保育者のためのパソコン講座』萌文書林

土岐順子ほか（2019）『情報利活用 基本演習～Office 2019対応』日経BP

その他の参考書は、必要に応じて随時紹介します。

学生に対する評価

最終成果物（課題演習）の評価 60%

授業への参加度 40%（授業内の小課題やアンケート提出）

授業科目名： 英語	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 単位 (演習)	担当教員名： 加藤磨理子
			配当年次：一部2年
			担当形態： 単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	—		
担当教員の実務経験	幼稚園、保育園での英語指導の実務経験あり		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>国際化の進行する保育現場において、英語を母語とする幼児、保護者と、日本語を母語する幼児への双方に対して、基本的な英語でのコミュニケーションが取れるようになることを目指す。保育に最低限必要な英単語を理解し、正確に発音、表記することができるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>テキスト『保育の英会話』をベースに、歌、映像資料などを取り入れて、子どもが英語に親しみ新しい文化を知るきっかけを与える保育者を目指す。前半ではテキスト演習の座学を中心に。後半では子ども向けの英語の歌を、歌詞の内容と子どもが興味を惹くポイントを理解した上で、保育現場で実際に使うことができるように練習をする。適宜、映像資料も視聴する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： イントロダクション 授業概要。前期授業とのつながり。 第2回： Unit1 保育の英会話への第一歩 “The Alphabet Song” 第3回： Unit1 リスニングの基本、保育の英単語 “Finger Family” 第4回： Unit2 挨拶の決まり “Bingo” 第5回： Unit2 家庭調査票を読み取る “Mary Had a Little Lamb” 第6回： Unit3 時刻の表し方 “Good Morning” 第7回： Unit3 持ち物のお知らせと数 “Lazy Mary” 第8回： Unit4 地図と場所 “Sunday, Monday, Tuesday” 第9回： Unit4 道案内をしてみよう “Head, Shoulders, Knees and Clap!” 第10回： Unit5 子供の遊び “Happy Birthday to you” 第11回： Unit5 動作と遊びの英単語 “The Hokey-Pokey” 第12回： Unit6 登園、今日の天気は？／グループワーク 第13回： Unit6 降園、どんな一日だった？／グループワーク 第14回： Unit6 自分のことを表現しよう ～したことある？／グループワーク 第15回： グループ発表、試験とまとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>『保育の英会話』（赤松直子、久富陽子著 萌文書林）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『くもんはじめてのえいごうたえほん』（公文教育研究会英語教材部）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>筆記試験60%、単語テスト20%、グループワークへの積極性（最終回のグループ発表に向けて、複数で協力し合って一つの作品を作り出す姿勢に着目する。実際の保育の現場を想定して、積極的なコミュニケーションを取り合うことを目標にする）20%</p>			

授業科目名： 体育	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (講義・実技)	担当教員名：中山 恭一 配当年次：一部1年 担当形態：単独
教員養成課程の区分	一般教養科目		
保育士養成課程の区分	教養科目（体育）		
担当教員の実務経験	—		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>スポーツや身体活動（運動プログラム）の実践を通して自己体力の現況を認識し、またお互いを認め合いながらコミュニケーションスキルを高め合うことが出来る。また、各自の心とからだも良い状態に維持・向上させる習慣（セルフマネージメント能力《自己管理能力》）を身に付けることが出来る。そして、生涯スポーツのきっかけとなるような様々なスポーツを体験する。</p>			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の体力を把握すると共に、身近にある様々な用具を使い、グループワークやディスカッションを取り入れてスポーツを楽しみ、学生自らが基礎体力を養える援助を行う。 実技と並行し、アクティブ・ラーニングの取り組みとして google classroom を利用し、学生各自で作成した運動プログラムを日々実践し、週単位で振り返り自己評価を行う。これを後期期間中繰り返すことが出来るよう援助を行う。また日頃から {ダイエットアプリ「FiNC(フィンク)」(無料)} 等を積極的に活用し、栄養&運動&休息等のサポートを受け、学生各自がコンディションを把握・分析し日常生活に活かせるような取り組みを促す。そして、最終的にはこれらを資料として、科学的根拠を基に自身の取り組みを振り返り、日常生活に活かす工夫を考えレポートとしてまとめていけるよう働きかける。 コロナウイルスの感染防止対策の観点から、クラスの人数を半分にし対面クラスとオンラインクラスに分けて隔週毎に入れ替えて行う。 <p>☆事前・事後学修：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ {子ども・健康・教育（保育）・スポーツ全般・福祉} 等をキーワードに新聞・雑誌&インターネット等を利用して情報収集を行い、自身の身の回りの状況に目を向ける。 ◎各自事前に心肺蘇生における各関係団体の実施している講習を修了していることが望ましい（未講習者はインターネット等から情報を収集する）。 ◎各実施種目のルールと特性を確認しておくこと（各種目の試合映像や一流選手のプレーを観察する等）。 ◎授業中の運動強度がどの程度であったかを、授業中に測定した心拍数を基に計算し、運動の内容と強さとの関係について分析する。 ◎ダイエットアプリ《FiNC(フィンク);無料》等を活用し、栄養&運動&休息等のサポートを受け、日常生活及び授業において身体を良好な状態にして臨む。 ◎学生各自で作成した運動プログラムを日々実践し、自己評価を行う。 <p>☆課題に対するフィードバックの方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎学生から寄せられた質問や感想等は、必要に応じて授業中に全履修学生に対しその内容を伝え解説を加える等の対応を行っている。 ◎授業内課題およびレポート等は、翌週以降にコメントを付けて返却する 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業概要のガイダンス、アクティブ・ラーニング；運動プログラム作成準備</p> <p>第2回：スポーツマンシップについて / {アクティブ・ラーニング；運動プログラム作成}</p>			

- 第3回：身体活動が脳と心とからだに及ぼす影響について①（理論編）
 / {アクティブ・ラーニング；運動プログラム実践・評価}
- 第4回：◎アリーナにてバドミントン①（①対面クラス）：基本技術の確認・習得
 ◎教室にて課題学習①（②オンラインクラス）：身体活動が脳と心とからだに及ぼす影響について②（実践編）
 / {アクティブ・ラーニング；運動プログラム実践・評価}
- 第5回：◎アリーナにてバドミントン②（②対面クラス）：基本技術の確認・習得
 ◎教室にて課題学習②（①オンラインクラス）：身体活動が脳と心とからだに及ぼす影響について②（実践編）
 / {アクティブ・ラーニング；運動プログラム実践・評価}
- 第6回：◎アリーナにてバドミントン③（①対面クラス）：ダブルスのゲーム戦術
 ◎教室にて課題学習③（②オンラインクラス）：身体活動が脳と心とからだに及ぼす影響について③（脳科学を応用した発達支援）
 / {アクティブ・ラーニング；運動プログラム実践・評価}
- 第7回：◎アリーナにてバドミントン④（②対面クラス）：ダブルスのゲーム戦術
 ◎教室にて課題学習④（①オンラインクラス）：身体活動が脳と心とからだに及ぼす影響について③（脳科学を応用した発達支援）
 / {アクティブ・ラーニング；neo 運動プログラム作成・実践・評価}
- 第8回：◎アリーナにてバドミントン⑤（①対面クラス）：ダブルスの簡易ゲーム
 ◎教室にて課題学習⑤（②オンラインクラス）：身体活動が脳と心とからだに及ぼす影響について④（まとめ：知識の定着）
 / {アクティブ・ラーニング；neo 運動プログラム実践・評価}
- 第9回：◎アリーナにてバドミントン⑥（②対面クラス）：ダブルスの簡易ゲーム
 ◎教室にて課題学習⑥（①オンラインクラス）：身体活動が脳と心とからだに及ぼす影響について④（まとめ：知識の定着）
 / {アクティブ・ラーニング；neo 運動プログラム実践・評価}
- 第10回：性教育・健康教育の視点から“命の尊さ”を学ぶ（テーマ：臓器移植）
 / {アクティブ・ラーニング；neo 運動プログラム実践・評価}
- 第11回：心肺蘇生法の基礎知識について（胸骨圧迫を中心に実施）
 / {アクティブ・ラーニング；neo 運動プログラム実践・評価}
- 第12回：心肺蘇生法の基礎知識と技術について（胸骨圧迫を中心に実施）
 / {アクティブ・ラーニング；neo 運動プログラム実践・評価}
- 第13回：心肺蘇生法の実践トレーニング（胸骨圧迫を中心に実施）
 / {アクティブ・ラーニング；neo 運動プログラム実践・評価}
- 第14回：心肺蘇生教育の知識と技術の振り返り（胸骨圧迫を中心に実施）
 / {アクティブ・ラーニング；neo 運動プログラム実践・評価、まとめ（最終課題レポート）}
- 第15回：心肺蘇生教育の知識と技術における重要事項の確認試験&まとめ

テキスト：特になし

適宜、資料等を提示する。

参考書・参考資料等

◎『アクティブスポーツ女子版』大修館書店

◎ジョンJレイティ著 『脳を鍛えるには運動しかない！最新科学でわかった脳細胞の増やし方』 NHK 出版

◎清水貴子著 ジョンJレイティ監修

『発達障害の子の脳をきたえる 笑顔がはじけるスパーク運動療育』 小学館

◎正木健雄・井上高光・野尻ヒデ著 『脳をきたえる「じゃれつき遊び」』 小学館

◎竹脇まりな著 『やせるダンス』 KADOKAWA

☆ダイエットアプリ『FiNC(フィンク)』（無料）

学生に対する評価

①毎日の運動プログラムの実践&評価（日々実践&記録を行い、こまめに自己評価をし反映しているか）：30%

②各回の課題達成・授業理解（各自が到達目標・各回のポイントを意識し取り組んでいるか：授業に臨む準備が良好であるか・コミュニケーションを取りながら行われているか等）：30%

③確認試験（授業で取り組んだ胸骨圧迫をメインとした心肺蘇生法に関する内容）：20%

④最終レポート試験：題目「後期期間中にスポーツ（身体活動；運動プログラム）を通して各自の心身の変化を科学的根拠を基に分析し、自身の日常生活に活かす工夫を考察する」：20%

※

1. 実技時の服装はスポーツウェア、靴は運動靴に限定し、それ以外の着用は安全上の観点から参加は認められない。
2. 授業前は十分な睡眠と適切な食事をとり、体調管理に務めること。

授業科目名： 体育	学則に定める必修/選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (講義・実技)	担当教員名：渡辺潤一 配当学年：一部2年 担当形態：単独
教員養成課程の区分	一般教養科目		
保育士養成課程の区分	教養科目（体育）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ 体育実技及び保健体育やレクリエーション実技を通して自身の状況を把握し、自らが（保育者としても）健康の保持増進を図ることと、良好な人間関係を作るためのコミュニケーションスキルの向上を目的とする。さらに保育の現場において子どもたちに対し、実践できるレクリエーション財の技術を習得することも目的とする。			
授業の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・各種スポーツやレクリエーション財を通して、レクリエーションダンス等の軽い運動や手遊び等を楽しみ、自らが基礎体力と心身共により豊かな生活を過ごす力を養えるよう援助を行う。また、生涯スポーツのきっかけとなるような様々なプログラムに取り組む。 ・レクリエーション指導法・保健体育についての基本的知識・技術を学ぶ。 			
授業計画 第1回：授業概要、体育・レクリエーション実技習得と効果 第2回：幼児期における運動の意義、体育・レクリエーション実技の習得 第3回：幼児期における運動の意義、体育・レクリエーション実技の習得 第4回：幼児期における基本的な動き、体育・レクリエーション実技の習得 第5回：幼児期における一般的な運動の発達の特性と経験しておきたい遊び（動き）、体育・レクリエーション実技の習得 第6回：幼児期の運動の行い方と留意事項、体育・レクリエーション実技の習得 第7回：子どもの応急手当と実際、体育・レクリエーション実技の習得 第8回：子どもの応急手当と実際、体育・レクリエーション実技の習得 第9回：運動をする際の目安、体育・レクリエーション実技の習得 第10回：保健体育・体育理論、体育・レクリエーション実技の習得 第11回：保健体育・体育理論、体育・レクリエーション実技の習得 第12回：保健体育・体育理論、体育・レクリエーション実技の習得 第13回：保健体育・体育理論、体育・レクリエーション実技等の習得 第14回：課題レポート作成、体育・レクリエーション実技の習得 第15回：課題レポート作成と提出、体育・レクリエーション実技の習得			
テキスト 指定しない。			
参考書・参考資料等 必要に応じて、適宜資料配布を行う。			
学生に対する評価 ① 授業への取り組み：40% ② 課題レポート等：30% ③ 実技試験：30%			

授業科目名： 音楽Ⅰ	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (演習)	担当教員名： 野戸智美／他17名
			配当学年：一部1年
			担当形態：単独、クラス分け
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（保育内容の理解と方法）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>1 保育の場で必要とされる、総合的な音楽の基礎力を学び身につける。</p> <p>2 主にピアノを媒介として、鍵盤楽器奏法の基本と童謡歌曲等の伴奏法並びに弾き歌いの力を養成する。</p>			
授業の概要			
<p>1 本校独自の音楽グレード制をベースに、最低目標値をバイエル終了程度とする。</p> <p>2 年間10回程度のグレード検定試験を行ない、個々のペースにあわせて試験を受けられる。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス ピアノ学習の目的と心構え グレード設定。</p> <p>第2回：バイエルNo.1～No.9。正しい姿勢 椅子の高さ 指の位置。</p> <p>第3回：バイエルNo.10～No.20。指使い 正確な音の長さの理解について。</p> <p>第4回：バイエルNo.11～No.20。指使い 正確な音の長さの理解スラーについての確認。</p> <p>第5回：バイエルNo.21～No.30。タイについて 鍵盤の位置。</p> <p>第6回：バイエルNo.21～No.30。タイについて 鍵盤の位置の確認。</p> <p>第7回：バイエルNo.31～No.50。オクターブ記号 付点音符について 全音符から8分音符までの正確な音価。</p> <p>第8回：バイエルNo.31～No.50。オクターブ記号 付点音符について 全音符から8分音符までの正確な音価の確認。</p> <p>第9回：バイエルNo.51～No.79。スタカート アウフタクト ヘ音記号。童謡任意弾き歌い。</p> <p>第10回：バイエルNo.51～No.79。分散形伴奏 ト長調。童謡任意弾き歌いの確認。</p> <p>第11回：バイエルNo.80.83.85。前打音 手の交差奏法 ニ長調・イ長調・ホ長調・ヘ長調。童謡任意弾き歌い。</p> <p>第12回：バイエルNo.88.89.90。16分音符の早い動き 16分音符の意識。童謡任意弾き歌い。</p> <p>第13回：バイエルNo.91.93.95。イ短調 6度の奏法。童謡任意弾き歌い。</p> <p>第14回：バイエルNo.96.97.98。前打音装飾音符 3度の動き。童謡任意弾き歌い。</p> <p>第15回：バイエルNo.80～No.98の中より任意の2曲 童謡の中より任意の2曲（7グレード）。</p> <p>第16回：バイエルNo.99.100.101.102。複付点音符 ポジションの跳躍。童謡任意弾き歌い マーチ。</p> <p>第17回：バイエルNo.99.100.101.102。童謡任意弾き歌い マーチ。</p> <p>第18回：バイエルNo.103.104.105。半音階奏法。童謡・マーチの奏法。</p> <p>第19回：バイエルNo.103.104.105。童謡任意弾き歌い マーチ。</p> <p>第20回：バイエルNo.103.104.105。童謡任意弾き歌いマーチの確認。</p> <p>第21回：バイエルNo.100.102.104.105。の中より任意の2曲 童謡マーチの中より任意の2曲。（6グレード）</p> <p>第22回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.1 童謡 マーチの中から「あるきましょう」「はしりましょう」</p> <p>第23回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.2 童謡 マーチの中から「おとのマーチ」</p> <p>第24回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.3 童謡 マーチの中から「おともだち」「オリンピア・マーチ」</p> <p>第25回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.4 童謡 マーチの中から「お料理行進曲」</p> <p>第26回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.5 童謡 マーチの中から「かけっこマーチ」「かけあしマーチ」</p> <p>第27回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.6 童謡 マーチの中から「カレンダーマーチ」</p> <p>第28回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.7 童謡 マーチの中から「きれいな小川」「子供の世界」</p> <p>第29回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.8 童謡 マーチの中から「小犬のマーチ」「なかよしマーチ」</p> <p>第30回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.9 童謡 マーチの中から「バースデイ・マーチ」「パレードマーチ」</p> <p>※ 個人指導を含む為、同様の範囲を示しているが内容は個々の進度によって異なる。</p>			
テキスト			
<p>ドレミ出版社 「こどもの歌名曲アルバム」、聖ヶ丘教育福祉専門学校発行「童謡曲集」・「マーチ曲集」</p> <p>全音出版社 「全訳バイエルピアノ教則本」、全音出版社 「ブルグミュラー 25の練習曲」</p>			
参考書・参考資料等			
<p>幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p>			
学生に対する評価			
【出欠席の確認】			
授業の最初に点呼をとる。各自のレッスン開始時間に不在の場合は、遅刻・早退・または欠席として扱う。			
実技試験 100%			
60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」として単位を認定する。			
なお、本校の感染警戒レベルの変動により受講方法に差異が生じた場合でも、成績評価には影響しない。			

授業科目名： 音楽Ⅱ	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (演習)	担当教員名： 野戸智美／他17名
			配当学年：一部2年
			担当形態：単独、クラス分け
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（保育内容の理解と方法）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>1 保育の場で必要とされる、総合的な音楽の基礎力を学び身につける。</p> <p>2 主にピアノを媒介として、鍵盤楽器奏法の基本と童謡歌曲等の伴奏法並びに弾き歌いの力を養成する。</p>			
授業の概要			
<p>1 本校独自の音楽グレード制をベースに、最低目標値をバイエル終了程度とする。</p> <p>2 年間10回程度のグレード検定試験を設定し、個々のペースにあわせて受験する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス ピアノ学習の目的と心構え ピアノ担当教員紹介 グレード設定の確認。</p> <p>第2回：ブルグミュラーNo.1.2 童謡弾き歌い レガート奏法 スタッカート奏法の説明。</p> <p>第3回：ブルグミュラーNo.1.2 童謡弾き歌い レガート奏法 スタッカート奏法の確認。</p> <p>第4回：ブルグミュラーNo.3.4 童謡弾き歌い メロディーの歌い方 3度奏法の説明。</p> <p>第5回：ブルグミュラーNo.3.4 童謡弾き歌い メロディーの歌い方 3度奏法の確認。</p> <p>第6回：ブルグミュラーNo.5.6 童謡弾き歌い 連続する16分音符や左右の手での10度並進行の奏法と説明。</p> <p>第7回：ブルグミュラーNo.5.6 童謡弾き歌い 連続する16分音符や左右の手で10度の並進行をバランスよく弾く。</p> <p>第8回：ブルグミュラーNo.7.8 童謡弾き歌い 右第1指で弾く保持音奏法についての説明。</p> <p>第9回：ブルグミュラーNo.7.8 童謡弾き歌い 装飾音符についてと第8回の振り返り。</p> <p>第10回：ブルグミュラーNo.9.10 童謡弾き歌い 長い曲になれる。</p> <p>第11回：ブルグミュラーNo.9.10 童謡弾き歌い 第10回の振り返りと確認。</p> <p>第12回：ブルグミュラーNo.1～No.10の中から任意で2曲選択・音の確認 童謡弾き歌い。</p> <p>第13回：ブルグミュラーNo.1～No.10の中から任意で2曲選択・奏法の確認 童謡弾き歌い。</p> <p>第14回：ブルグミュラーNo.1～No.10の中から任意で2曲選択・強弱のバランス確認 童謡弾き歌い。</p> <p>第15回：ブルグミュラーNo.1～No.10の中から任意で2曲選択・暗譜 童謡弾き歌い。（5グレード）</p> <p>第16回：ブルグミュラーNo.11.12 童謡弾き歌い 上行・下行の動きや両手同時のスタッカート、3連符。</p> <p>第17回：ブルグミュラーNo.11.12 童謡弾き歌い、確認。</p> <p>第18回：ブルグミュラーNo.13.14 童謡弾き歌い トリル 装飾音符について説明。</p> <p>第19回：ブルグミュラーNo.13.14 童謡弾き歌い、確認。</p> <p>第20回：ブルグミュラーNo.15.16 童謡弾き歌い 和音のバランスや左右のバランス。</p> <p>第21回：ブルグミュラーNo.15.16 童謡弾き歌い、確認。</p> <p>第22回：ブルグミュラーNo.17.18 童謡弾き歌い 連打や16分音符の意識。</p> <p>第23回：ブルグミュラーNo.17.18 童謡弾き歌い、確認。</p> <p>第24回：ブルグミュラーNo.19.20 童謡弾き歌い ペダルでの和音のレガート奏法 音価。</p> <p>第25回：ブルグミュラーNo.19.20 童謡弾き歌い、確認。</p> <p>第26回：ブルグミュラーNo.11～No.25の中から任意で2曲選択・音の確認 童謡弾き歌い</p> <p>第27回：ブルグミュラーNo.11～No.25の中から任意で2曲選択・奏法の確認 童謡弾き歌い</p> <p>第28回：ブルグミュラーNo.11～No.25の中から任意で2曲選択・強弱のバランス確認 童謡弾き歌い</p> <p>第29回：ブルグミュラーNo.11～No.25の中から任意で2曲選択・全体の纏まりと速度 童謡弾き歌い</p> <p>第30回：ブルグミュラーNo.11～No.25の中から任意で2曲選択・暗譜 童謡弾き歌い</p> <p>※ 個人指導を含む為、同様の範囲を示しているが内容は個々の進度によって異なる。</p>			
テキスト			
<p>ドレミ出版社 「こどもの歌名曲アルバム」、聖ヶ丘教育福祉専門学校発行「童謡曲集」・「マーチ曲集」</p> <p>全音出版社 「全訳バイエルピアノ教則本」、全音出版社 「ブルグミュラー 25の練習曲」</p>			
参考書・参考資料等			
<p>幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p>			
学生に対する評価			
【出欠席の確認】			
授業の最初に点呼をとる。各自のレッスン開始時間に不在の場合は、遅刻・早退・または欠席として扱う。			
実技試験 100%			
60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」として単位を認定する。			
なお、本校の感染警戒レベルの変動により受講方法に差異が生じた場合でも、成績評価には影響しない。			

授業科目名： 音楽Ⅲ	学類に定める必修/選択の別 選択科目	単位数： 2単位 (演習)	担当教員名： 野戸智美 / 高橋拓真
			配当学年：一部1年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（保育内容の理解と方法）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ 保育者にとって音楽は基礎科目の必修である。音楽表現を高めると共に、音楽理論を含めた様々な音楽を体験し、保育楽器を使って学生みずから体感できるように指導する。			
授業の概要 ソルフェージュ（楽譜の基礎・楽典）・手あそび（うたあそび）・合奏・歌唱・聴音・リズム課題 後期全15回の授業全てをZOOMによる遠隔授業（同時双方向型）で行う。			
授業計画 第1回：ガイダンス 音楽理論の意味と楽典の内容及び授業方針の概要の説明 第2回：楽典①（譜表と音名） 校歌・附属幼稚園園歌・生活の歌 手を使ったうたあそび 第3回：楽典① 春の歌 手を使ったうたあそび 第4回：楽典②（音符と休符） 春の歌 手を使ったうたあそび 第5回：楽典② 春の歌 食べものが出てくるうたあそび 第6回：楽典③（リズムと拍子） 夏の歌 食べものが出てくるうたあそび 第7回：楽典③ 夏の歌 食べものが出てくるうたあそび 第8回：楽典④（奏法と曲想） 夏の歌 動物が出てくるうたあそび 第9回：楽典④ 子どもの歌① 動物が出てくるうたあそび 第10回：楽典⑤（音階・移調） 子どもの歌① 動物が出てくるうたあそび 第11回：楽典⑤ 子どもの歌② からだを使ったうたあそび 第12回：楽典⑥（和音） 子どもの歌② からだを使ったうたあそび 第13回：楽典⑥ 子どもの歌② からだを使ったうたあそび 第14回：前期まとめ（筆記試験対策） 校歌・生活の歌・春の歌・夏の歌 第15回：前期試験（筆記及びリズム聴音） 振り返り授業 第16回：後期ガイダンス 幼児の器楽合奏① 秋の歌 第17回：幼児の器楽合奏② 秋の歌 第18回：幼児の器楽合奏③ 音楽表現① 秋の歌 第19回：幼児の器楽合奏④ 音楽表現② 冬の歌 第20回：音楽表現③ 冬の歌 第21回：音楽表現④ 冬の歌 第22回：音楽表現⑤ 運指表作成① 第23回：音楽表現⑥ 運指表作成② 第24回：コード伴奏法① 運指表作成③ 第25回：コード伴奏法② 指揮法① 第26回：コード伴奏法③ 指揮法② 第27回：コード伴奏法④ 第28回：コード伴奏法⑤ 第29回：後期筆記試験 第30回：コード伴奏法まとめ 1年間の振り返り			
テキスト 「こどもの歌 名曲アルバム」 ドレミ楽譜出版社 「新・たのしい子どものうたあそび-現場で活かせる保育実践- 第2版」 木村鈴代編 同文書院			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)			
学生に対する評価 【成績評価】 筆記試験50% 課題提出状況40% 受講状況10% 60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」として単位認定する。 なお、本校の感染警戒レベルの変動により受講方法に差異が生じた場合でも、成績評価には影響しない。			

授業科目名： 図画工作I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1 単位 (演習)	担当教員名： 畑山未央
			配当年次：1部1年
			担当形態： 単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目(領域に関する専門的事項)		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目(保育内容の理解と方法)		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ 保育における造形活動の主たる意義は、活動過程で生じる主体の変容(子どもの発達)を見取り、状況に適した支援を行う点にある。本授業では、①素材との触れ合いを通して想像力を触発するさまや造形活動の楽しさ・喜びを体験的に学び、また②素材・用具の扱い、描画に関わる幼児の発達段階を理解することで、造形活動における構想上の留意点や支援の在り方について考察する能力を習得することを目指す。			
授業の概要 乳幼児期の活動は常に創造的である。子どもたちの豊かな情操を育む基盤となる生活＝保育を発達とともに理解し、表現活動の援助について授業で体験しながら学ぶ。そのために、一般的に保育で用いられる素材や用具の特性を理解し、作品製作活動および実践的な造形遊びの演習を行う。演習では単に「つくりかた」や「造形の活動集」を知るのではなく、幼児の興味関心に触れていき、子どもが遊びながら学んでいく現象を捉え、子どもにとっての表現の意味を考察していくことを重視する。その結果、15回の講義を通して、〈表現〉領域の活動の中で5領域全体に関わる活動展開が期待されることを理解し、表現を通して子どもを育てていくという視点をもてることを目指す。			
授業計画 第1回：ガイダンス：授業の概要、求める姿勢、評価、準備物等の確認 第2回：【演習】素材研究①描画材：絵の具の活動 第3回：【演習】素材研究②パス、クレヨン 第4回：【演習】素材研究③いろいろな紙 第5回：【演習】子どもの発達と表現 第6回：【演習】用具の取り扱い：はさみ、ステープラーを使ったあそび 第7回：【演習】素材を使ったパペット作り①：用具と描画材の工夫 第8回：【演習】素材を使ったパペット作り②：作品の仕上げ、鑑賞 第9回：【演習】水・光を感じる活動：色水であそぶ 第10回：【演習】環境設定による全身を使った造形表現 第11回：【演習】粘土①：触覚の再発見と素材の呼応性 第12回：【演習】粘土②：グループ製作 第13回：【演習】身の回りにある造形素材：おもちゃの製作①素材の特徴を生かす 第14回：【演習】身の回りにある造形素材：おもちゃの製作②作品の仕上げ、鑑賞 第15回：【講義】まとめ			
テキスト 特になし。各回の内容に応じたプリント資料を使用する。			
参考書・参考資料等 槇英子『保育をひらく造形表現』，萌文書林，2018年（第2版） 平田智久，小野和『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』，保育出版，2011年 幼稚園教育要領（平成29年3月告示，文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示，内閣府・文部科学省・厚生労働省） 保育所保育指針（平成29年3月告示，厚生労働省）			
学生に対する評価 【評価配点】 1. 授業への取り組み（10%） 2. 成果物・記録（40%） 3. 最終試験（50%）			

授業科目名： 図画工作Ⅱ	学則に定める必修/選択の別 選択科目	単位数： 2単位 (演習)	担当教員名： 羽田顕佑
			配当学年：一部 2年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（保育内容の理解と方法）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ			
<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の心身発達と造形活動との関連、及び、造形の発達段階について学習する。 ・造形活動で使用する教材や素材・用具についての知識を、体験を通して習得する。 ・年齢や発達に合わせた教育課題が考えられるようになることを目指す。 ・表現領域のひとつとしての、造形教育がもつ目的や意味について理解する。 			
授業の概要			
造形活動の主体となる子どもの心情や体性感覚を追体験的に学ぶことで、「描く」「作る」活動を通して何を育むのかという教育的目的を明確に考える実践的姿勢を培ってゆく。 表現を通して育まれる心身の発達が子どもの人格・概念形成に関わる大きな要素であることを理解し、また年齢や発達を考慮した課題設定などについて、実技体験により具体的な方法を学ぶ。			
授業計画			
第1回：【講義】ガイダンス…授業の趣旨、概要、求める姿勢、評価について			
第2回：【講義】造形領域からみる人間の発達的特質			
第3回：【講義】人間の心身発達の段階（手と言語の能力を中心に）映像教材の鑑賞			
第4回：【講義】描画・造形の発達段階			
第5回：【講義】表現と思考の発達過程/造形による教育の目的			
第6回：【演習】描画発達段階の追体験①手と目の照応作用の確認			
第7回：【演習】描画発達段階の追体験②照応作用を駆使した描画遊び			
第8回：【演習】描画発達段階の追体験③知覚に注視した描画遊び			
第9回：【演習】紙素材による制作①切り紙遊び（手の能力と造形思考）			
第10回：【演習】紙素材による制作②お弁当制作（生活のイメージと造形思考）			
第11回：【演習】絵の具による表現①描画材と用具の活用			
第12回：【演習】絵の具による表現②身体性を用いた遊び（フィンガーペイント）			
第13回：【演習】造形の教材研究①題材の選定、実制作			
第14回：【演習】造形の教材研究②指導案作成			
第15回：【講義】まとめ 子どもの発達と教育課題			
第16回：【講義】後半ガイダンス…授業様態、評価、取り組みの注意点について/前期試験の振り返り			
第17回：【講義・演習】発達と個性を捉える理論と実践①芸術療法の理論			
第18回：【講義・演習】発達と個性を捉える理論と実践②芸術療法の体験と省察			
第19回：【演習】アバター制作①導入、構想（平面によるアイデアスケッチ）			
第20回：【演習】アバター制作②構想、経過記録作成			
第21回：【演習】アバター制作③立体化に向けた導入、芯材組み			
第22回：【演習】アバター制作④粘土付け			
第23回：【演習】アバター制作⑤仕上げ・彩色/記録作成			
第24回：【演習】季節に合わせた制作：クリスマスリース			
第25回：【演習】張り子制作①導入、構想			
第26回：【演習】張り子制作②原型作り～張り込み			
第27回：【演習】張り子制作③張り込み			
第28回：【演習】張り子制作④仕上げ			
第29回：【講義・演習】作品鑑賞会・講評			
第30回：【講義】まとめ：制作と理論の関係を確認/造形による教育の基本的規座			
テキスト			
特になし。各回の内容に応じたプリント資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
『造形のじかん』作善圭編著、愛智出版、2013			
『子供の世界 子供の造形』松岡宏明、三元社、2017			
『幼稚園教育要領』平成29年3月告示 文部科学省			
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省			
『保育所保育指針』(平成29年3月告示 厚生労働省)			
学生に対する評価			
【評価配点】 1. 授業への取り組み (10%) 2. 成果物・記録 (60%) 3. 最終課題 (30%)			

授業科目名： 体育 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名：細谷美碧 配当学年：一部1年 担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（保育内容の理解と方法）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ 子どもたちに指導するための体力や柔軟性を養い、身体を動かすことで可動域を広げ、行事等で活かせる演技や表現力を養うことを目的とする。			
授業の概要 音楽に合わせてながら動ける身を作り、子どもたちに表現する楽しさと基礎体力を身につけられるように自分自身で積極的に取り組む。			
授業計画 第1回：基礎柔軟体操 説明 第2回：基礎柔軟体操 実践 第3回：応用柔軟体操 実践 第4回：基本ステップ 第5回：応用ステップ 第6回：手・腕の動作（ポーズ） 第7回：足・脚の動作（ポーズ） 第8回：手・足組み合わせ動作（ポーズ） 第9回：ステップを組ませた動作 第10回：曲に合わせた振り付けの説明 第11回：振り付けに対しての細やかな指導 第12回：振り付けを体得する 第13回：発表までの振り付けの完成を目指す 第14回：試験を受ける為の基礎・応用の確認指導 第15回：試験・授業			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 実技試験60% 授業への取り組み30% 出席率10% 授業の最初と最後にチャットの書き込みを求める。書き込みのないものは遅刻・早退または欠席として扱う。			

授業科目名： 国語	学則に定める必修／選択の 別 必修科目	単位数： 単位 (講義)	担当教員名： 加藤磨理子 配当年次：一部1年 担当形態： 単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	—		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ この授業では保育の現場に携わるにあたって、領域それぞれの学問的背景や基盤となる考え方を学ぶ。具体的には日本語で書かれた文章の読解、表現方法を正確に理解する。また保育者が幼児と関わる上で重要な要素となる「読み聞かせ」「おはなし」のねらい、文化的背景を理解し、実践的なアプローチ方法を学ぶ。			
授業の概要 前半ではテキスト『保育で使える文章の教科書』を利用して、保育者として必要最低限の会話、読み書きのルール、一般教養を身に着ける。また、毎授業ごとに読解の時間を設け、読書習慣をつける。後半ではその他の絵本、児童文学を参照にしつつ、子どもの成長における物語の関わり方についてを学ぶ。授業期間中に適宜、課題やリアクションペーパーの提出を行う。			
授業計画 第1回： 授業概要、自己紹介 第2回： 基本の挨拶と敬語／物語の始まり、命の誕生 第3回： 実習先にて（自己紹介と実習先でのマナー）／物語の中の「保育園」 第4回： 保育現場での話し方、子どもへの言葉かけ／食べ物、食事を描いた物語 第5回： 就職面接／親子の関係、子どもの不満を描いた作品 第6回： 演習①短い物語を作ろう『今まででいちばん楽しい日』 保育者自身の体験を元に、物語の基本構成と発想方法を学ぶ 第7回： 保護者対応、電話／繰り返し言葉、歌の効果的な使い方 第8回： 正しく書こう／限りある人生「古い」と「死」 第9回： 文章の基本／病院と注射、物語の中のさらに想像の世界 第10回： 演習②短い物語を作ろう『〇〇ちゃんの物語』 子どもへの語り聞かせを想定した物語の構成と発想方法を学ぶ 第11回： 実習日誌と指導計画／叱られる体験 第12回： 手紙とメールのマナー／“得体のしれないもの、への恐怖と関心 第13回： 履歴書の書き方／戦争と大人の憂鬱 第14回： 連絡帳の書き方／妹（弟）が生まれる！ 第15回： まとめと試験			
テキスト 『保育で使える文章の教科書』（木梨美奈子著 つちや書店）			
参考書・参考資料等 『伝わる・揺さぶる！文章を書く』（山田ズーニー著 PHP 新書）			
学生に対する評価 筆記試験60%、課題40%（演習①、演習②で取り組む課題の完成度を評価する。 創作作品としての斬新さではなく、授業内で指示した要件を満たす作品を作成することができたかどうかに着目する）			

授業科目名： 保育原理 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名：竹内あゆみ 配当学年：一部1年 担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目（「保育原理」）		
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（3年）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>保育原理 I では、保育の意義及び目的、保育に関する法令及び制度、保育の思想と歴史の変遷、子どもの発達と保育など、保育所保育指針における保育の基本について理解する。また、それを踏まえて保育の現状と課題についての知識を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>保育の基本、歴史の変遷や思想について学んだ上で、保育の現状と課題について考察し、学びを踏まえて保育実践を理解できる力を身に付ける。また、保育の仕事について具体的に学びながら、保育者としてあるべき姿を追求して自己課題を見出せるような内容とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、この授業で学ぶこと 第2回：保育の意義及び目的 第3回：保育に関する法令及び制度 第4回：保育所保育指針における保育の基本① 第5回：保育所保育指針における保育の基本② 第6回：保育所保育指針における保育の基本③ 第7回：保育所保育指針における保育の基本④ 第8回：子育て支援について学ぶ 第9回：保育の思想と歴史の変遷① 諸外国の保育の思想と歴史 第10回：保育の思想と歴史の変遷② 日本の保育に思想と歴史 第11回：恩物、教具を学ぶ 第12回：先人に学ぶ（1）倉橋惣三 ー児童中心主義の保育を探るー 第13回：先人に学ぶ（2）津守真 ー保育者の地平からー 第14回：保育の現状と課題、諸外国・日本の保育の現状と課題 第15回：総まとめ、定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>Workで学ぶ保育原理（平成31年 わかば社）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）</p>			
<p>学生に対する評価：定期試験（50%）、提出物（30%）、授業への取り組み（20%） 備考）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業内で事前学習内容を提示するので教科書の指定箇所を熟読すること。（2時間） ・毎回の授業内で事後学習内容を提示するので配布プリント等の課題を考えること。（2時間） ・毎回の授業内でGoogleフォームを使用したリフレクションシートを記入して提出すること。それを踏まえ、翌週の授業で振り返りを行い、全体にフィードバックする。 			

授業科目名： 保育原理Ⅱ	学則に定める必修／選択の別 選択科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名：竹内 あゆみ 配当学年：一部2年 担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目		
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（3年）		
授業の到達目標及びテーマ 保育原理Ⅰの学びを踏まえ、保育の歴史、思想および実践的な原理を理解し、保育職の意義の理解を深める。また、保育の内容構成や基本方針を理解し、現代における保育の在り方と、保育現場に求められている内容について理解する。			
授業の概要 保育原理Ⅰで学んだ基礎的な事項を基盤として、保育の歴史・思想及び今日的な保育政策の動向について理解する。保育の内容と方法について、乳幼児の発達を学びながら保育者に求められる考え方や態度について考えるとともに、自分の言葉で説明できる力を身につける。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、この授業で学ぶこと 第2回：子ども理解から始まる保育 ～倉橋惣三「育ての心」を読み解く～ 第3回：子ども主体の保育とは何か 第4回：保育所保育指針における保育の基本① 環境を通して行う保育 第5回：保育所保育指針における保育の基本② 養護と教育の一体 第6回：子どもの発達と保育 第7回：これからの幼児教育に求められること 第8回：子育て支援の種類と内容 第9回：現代日本の保育施策と保育の制度 第10回：保育の指導計画① 保育記録の種類と内容 第11回：保育の指導計画② ドキュメンテーションの作成 第12回：保育の指導計画③ エピソード記録の分析 第13回：DVD視聴「モンテッソーリこどもの家」 第14回：見守る保育の意味と課題 ※第13回の授業の振り返り 第15回：総まとめ、定期試験			
テキスト 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）『保育所保育指針』（平成29年3月告示 厚生労働省）			
参考書・参考資料等 プリント・資料を配布する。			
学生に対する評価：定期試験（50％）、提出物（30％）、授業への取り組み（20％） 備考） ・毎回の授業内で事前学習内容を提示するので教科書の指定箇所を熟読すること。（2時間） ・毎回の授業内で事後学習内容を提示するので配布プリント等の課題を考えること。（2時間） ・毎回の授業内でGoogleフォームを使用したリフレクションシートを記入して提出すること。 それを踏まえ、翌週の授業で振り返りを行い、全体にフィードバックする。			

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名：亀田良克
			配当学年：一部1年
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ 「教育とは何か」について探求を深めるために教育の概念、理念、歴史、思想を知ることがをねらいとする。また、講義で学んだことを基礎に、教育や保育の現場で自らの教育観を構築できる力と姿勢を身につけることを目的とする。			
授業の概要 日本と諸外国の教育法規や制度を概観するとともに教育に関する歴史と思想をたどりながら教育についての理解を深めていく。また、教育現場の実践について、教育目的や内容、教育評価、学校教育、家庭教育などのさまざまな側面を学んでいく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（教育とは何か） 第2回：教育の目的 第3回：乳幼児期の教育の特性 第4回：教育と子ども家庭福祉の関連性 第5回：人間形成と家庭・地域社会 第6回：諸外国の教育の思想 第7回：諸外国の教育の歴史 第8回：日本の教育の歴史と思想 第9回：子ども観と教育観 第10回：教育制度の基本 第11回：教育の法律と行政 第12回：諸外国の教育制度 第13回：教育実践の基礎 第14回：さまざまな教育実践 第15回：講義の振り返りと試験			
テキスト 公益社団法人児童育成協会監修 矢藤誠慈郎・北野幸子編 基本保育シリーズ2『教育原理』中央法規			
参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領解説書』文部科学省、『保育所保育指針解説書』厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省			
学生に対する評価 ①定期試験（80%）、②コメントシート（20%）			

授業科目名： 社会福祉	学則に定める必修／選択の別 必修	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名：亀田良克 配当学年：一部1年 担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目（「社会福祉」）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における社会福祉の意義、歴史ならびに子ども家庭支援の視点について理解する。 ・社会福祉制度及びその実施体系について理解する。 ・社会福祉における相談援助について理解する。 ・社会福祉における利用者保護に関わる仕組みについて理解する。 ・社会福祉の動向と今後の課題について考究できる姿勢を構築する。 			
授業の概要 <p>社会福祉の意義、理念、歴史、制度、体系等の社会福祉の基礎を学ぶとともに、子ども家庭支援の視点を身につける。また、相談援助に関する理論や方法等の学習を通して、福祉サービス利用者を適切かつ円滑に支援するための態度や行動の基礎を培う。そして、学んだ知識や技術を土台に、さまざまな社会福祉が抱える問題や課題について探求していきます。</p> <p>以上の内容を講義中心に展開していきますが課題へ取り組む時間も設けます。毎授業終了時に次回の講義内容をお伝えしますので、テキストの該当箇所を事前に読むなどして次回の授業に臨んで下さい。授業後には、定期試験に向けてポイントをまとめておきましょう。</p>			
授業計画 <p>第1回：社会福祉の理念と歴史的変遷 第2回：子ども家庭支援と社会福祉 第3回：社会福祉の制度と法体系 第4回：社会福祉行財政と実施機関・社会福祉施設等 第5回：社会福祉の専門職 第6回：社会保障および関連制度の概要 第7回：相談援助の理論、相談援助の意義と機能 第8回：相談援助の対象と過程 第9回：相談援助の方法と技術 第10回：社会福祉における利用者保護の仕組み 第11回：少子高齢化社会における子育て支援 第12回：共生社会の実現と障害者施策 第13回：在宅福祉・地域福祉の推進 第14回：諸外国の社会福祉の動向 第15回：まとめと試験</p>			
テキスト <p>「社会福祉 新・基本保育シリーズ④」監修 公益社団法人 児童育成協会、松原康雄・朴洋一・金子充編、中央法規出版、2019</p>			
参考書・参考資料等 <p>保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p>			
学生に対する評価 <p>定期試験（80％）、課題（20％）</p>			

授業科目名： 子ども家庭支援論	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名： 坂吉美代
			配当年次：一部2年
			担当形態： 単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目 (「子ども家庭支援論」)		
担当教員の実務経験	保育士(保育所：23年) 園長(保育所：16年)		
授業の到達目標及びテーマ ① 家庭環境の変化、子育てをめぐる様々な問題を見ながら、支援の意義・目的を理解する。 ② 保育の専門性を生かした家庭支援、保育士に求められる基本的態度を理解して説明できるようにする。 ③ 支援の体制(国の施策・地域における社会資源)について学び、保育士の担う支援の理解を深める。 ④ 状況に応じた多様な支援(内容や対象)を考え、支援内容によっては専門機関との連携の重要性を理解する。また、子ども家庭支援の現状、課題についても理解する。			
授業の概要 ・家庭とは何か、支援とは何かを、すべての子ども達が子どもらしく生き生きと生活できるよう、保育の専門性を生かした支援、保育士として求められる基本的態度を知り、子ども家庭支援を捉える。支援の体制(社会資源、支援施策)、多様な支援の展開と関係機関との連携等、具体的な事例を通して保育の視点を考え論じる。			
授業計画 第1回：子ども家庭支援の意義と役割を知る。(家族・家庭とは、子ども、家庭をめぐる環境と現状) 第2回：保育士による子ども家庭支援の意義と基本 ① 保育の専門性を生かした実践の支援を知る。 第3回： // ② 子どもの育ちを保護者と共有する具体的な支援を知る。 第4回： // ③ 保護者の子育てを自ら実践する力の支援を考える。 第5回： // ④ 保育士に求められる基本的態度を知り具体的に説明できる。 第6回： // ⑤ 家庭の状況に応じた支援、「保育所保育指針 第4章」を理解する。 第7回：子育て家庭に対する支援体制(社会資源)を知る。 第8回：子育て家庭に対する支援体制(支援施策)を知る。 第9回：多様な支援の展開と関係機関との連携 ① 支援の内容と対象を知る。 第10回： // ② 保育所を利用している子育て家庭への支援について、保護者との相互理解・信頼関係・気づきを考える。 第11回： // ③ 状況に配慮した個別支援について、事例を通して保育の実践を考える。(障害や発達上の課題のある子ども・病気の子ども・外国籍家庭・ひとり親家庭・貧困・ステップファミリー) 第12回： // ④ 要保護児童の家庭について、事例を通して支援の対応を知る。(不適切な養育・虐待) 第13回： // ⑤ 地域の子育て家庭への支援について知る。 第14回： 子ども家庭支援に関する現状と課題を知る。(制度・行政上の仕組み) 第15回： 授業の振り返りまとめ・期末試験			
テキスト テキストは使用しない 必要に応じてプリントを配布する			
参考書・参考資料等 『最新 保育士養成講座 第10巻 子ども家庭支援』 全国社会福祉協議会 幼稚園教育要領 (平成29年3月告示 文部科学省) 保育所保育指針 (平成29年3月告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)			
学生に対する評価 期末試験もしくはレポート提出(80%)、授業態度(20%)で総合的に評価する。			

授業科目名： 社会的養護 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名：蠣崎尚美
			配当学年：二部2年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目（「社会的養護 I」）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ			
1 社会的養護が必要になる養護問題について理解する。 2 社会的養護の体系、歴史的展開、地域の役割を理解する。 3 子ども家庭福祉の理念と児童福祉施設の養護の実際を理解する。 4 児童福祉施設の援助者の役割を知る。			
授業の概要			
現代の社会的養護の制度や実施体系について理解する。そして、歴史、原理、人権問題など実際の児童養護施設現状と課題に理解を深め、社会的養護の対象や専門職について理解する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 社会的養護の理念と概念			
第2回：現代社会と児童福祉、社会的養護の基本原則			
第3回：権利主体としての児童（子どもの人権擁護）			
第4回：社会的養護の歴史			
第5回：児童養護の体系（施設、里親、グループホーム等）			
第6回：社会的養護の制度と法体系			
第7回：施設養護と家庭養護			
第8回：施設養護の基本原則 子どもの最善の利益			
第9回：施設養護の実際 施設の日常生活、自立支援 ビデオ視聴 『児童養護施設』			
第10回：施設養護の実際 治療的・支援的援助 ビデオ視聴 『医療型障害児入所施設』			
第11回：社会的養護に関わる専門職（児童相談所、関係機関、家庭等）			
第12回：被措置等の虐待防止			
第13回：児童福祉施設の援助者としての資質・倫理			
第14回：社会的養護の目指す方向、地域福祉 ビデオ視聴 『ぼっちゃん 元保護司の活動』			
第15回：授業のまとめ・定期試験			
テキスト	『社会的養護』喜多一憲監修 堀場純矢編集 みらい		
参考書・参考資料等	保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）		
学生に対する評価	筆記試験80%、参加態度10%、課題10%		

授業科目名： 教職概論	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名：古谷淳
			配当学年：一部2年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目（教職の意義及び教員の役割、教務内容（チーム学校への対応を含む。））		
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目（「保育者論」）		
担当教員の実務経験	古谷：（保育士4年）		
授業の到達目標及びテーマ 保育者の役割と倫理について理解する。 保育士の専門性について考察し、理解する。			
授業の概要 保育者の連携・協働について理解する。 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。			
授業計画 第1回： 保育者になるということ 第2回： 子どもとつくる0歳児保育① 0歳児前半目の前の「ヒト」「モノ」に気づくころ 第3回： 子どもとつくる0歳児保育② 「三項関係」の成立 第4回： 子どもとつくる1歳児保育① 1歳児の発達課題と保育実践の課題 第5回： 子どもとつくる1歳児保育② 2歳児クラスに向けての発達課題と保育実践の課題 第6回： 子どもとつくる2歳児保育① 2歳児の発達課題と保育実践の課題 第7回： 子どもとつくる2歳児保育② 「自分」と「他人」の発見 第8回： 子どもとつくる3歳児保育① 3歳児の発達課題と保育実践の課題 第9回： 子どもとつくる3歳児保育② 3歳児クラスの実践と展開 第10回： 子どもとつくる4歳児保育① 4歳児の発達課題と保育実践の課題 第11回： 子どもとつくる4歳児保育② 4歳児クラスの実践と展開 第12回： 子どもとつくる5歳児保育① 5歳児の発達課題と保育実践の課題 第13回： 子どもとつくる5歳児保育② 5歳児クラスの実践と展開 第14回： 子どもとともに作りあげる保育に向けて 第15回： まとめとテスト			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 ノート・ルーズリーフ等を各自で用意する			
学生に対する評価 授業評価20% テスト80%			

授業科目名： 発達心理学 I	学則に定める必修/選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名：密城吉夫
			配当学年：一部1年
			担当形態：単独
—	—		
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目（「保育の心理学」）		
担当教員の実務経験			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 胎芽期から児童期までの発達を科学的な視点でとらえる。 2 発達の段階をたどる過程で、思考の変化や相互作用を児童期に至るまで学習する。 3 発達を時系列でとらえ、子どもの身体的機能と思考を理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>子どもの発達は人的環境や物的環境を通して多様な相互作用の中で行われる。保育士は子どもとの相互作用のみならず、保育者として関わる援助を通して生涯にわたっての発育、成長も考慮しなければならない。発達心理学 I では、受精から誕生、その後の身体発達、精神機能(分化と統合の過程、自我の発達、社会意識)に触れ、発達の特徴や傾向を学んでいく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、テキスト・講義内容の説明、胚期 第2回：胎芽期、胎児期 第3回：遺伝と環境 第4回：心理学の変遷 第5回：視覚の発達、視覚断崖 第6回：感覚間の協応、共鳴動作 第7回：原始反射とメカニズム 第8回：動物実験（刷り込み、条件づけ、学習性無力、愛着）、大きさの恒常性、形の恒常性 第9回：原始反射 第10回：自己認知 第11回：指さし行動（Joint Attention） 第12回：同化と調節、相互作用、感覚的知能の段階、前概念的思考の段階、直観的思考の段階（前半） 第13回：直観的思考の段階（後半） 第14回：具体的操作の段階、形式的操作の段階 第15回：振り返り、試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>繁多進監修、向田久美子・石井 正子編著『新 乳幼児発達心理学』福村出版、2010</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特になし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>参加態度（40%）、試験（60%）を総合して判断する。 試験については、60点以上を合格点とする。</p>			

授業科目名： 教育心理学	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名：黒石憲洋
			配当学年：一部1年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目（幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程）		
保育士養成課程の区分	学校独自の科目		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ 1. 学習についての歴史的な考え方について理解する。 2. 学習を支える動機づけに関する理論を理解し、子どもの動機づけを高める働きかけや介入の仕方を検討する視点を習得する。 3. 行動における個人差としてのパーソナリティに関する考え方を理解する。 4. 教育における評価のあり方について理解し、その影響について検討する視点を習得する。			
授業の概要 教育を考える上で必要となる心理学の基礎概念・用語について理解するとともに、子どもの発達や成長、学習やその個人差を見極めて支えていく上で必要となる考え方として、心理学的な理論や評価や介入の仕方について学習する。授業方法としては、講義、アクティビティ、グループ・ディスカッション、発表などを組み合わせておこなう。			
授業計画 第1回：ガイダンスとイントロダクション：講義の概要、教育心理学で学ぶこと 第2回：教育とは：教育と保育、教育と学習、遺伝と環境 第3回：学習理論①：行動主義（古典的条件づけとオペラント条件づけ） 第4回：学習理論②：認知主義 第5回：学習理論③：状況主義 第6回：動機づけ理論①：欲求理論、達成動機理論、原因帰属理論、目標理論 第7回：動機づけ理論②：学習性無力感理論、自己効力理論 第8回：動機づけ理論③：認知的評価理論、自己決定理論 第9回：パーソナリティ理論①：類型論的理解 第10回：パーソナリティ理論②：特性論的理解 第11回：パーソナリティ理論③：愛着型とその発達 第12回：教育における評価①：絶対評価、形成的評価、ルーブリックとポートフォリオ 第13回：教育における評価②：教育における認知的バイアス 第14回：新しい学習の形態：協同学習、アクティブラーニング 第15回：試験および全体のまとめ ※前回の授業内容は、次回までにしっかりと理解しておくこと。不明な点については、自主学習や受講生間の協同学習、教員への質問などにより必ず解消しておくこと。			
テキスト テキストは特に使用しない。必要に応じて講義中に資料を配付する。			
参考書・参考資料等 市川伸一（1995）. 学習と教育の心理学 岩波書店 レイブ・ウエンガー（1993）. 状況に埋め込まれた学習：正統的周辺参加 産業図書 スティベック（1990）. やる気のない子どもをどうすればよいか 二瓶社			
学生に対する評価 15回目の講義中に実施する試験において、合格点（100点満点中、60点以上）を満たせば、単位を認定する。			

授業科目名： 子ども家庭支援の心理学	学則に定める必修／選択の別 必修	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名：黒石憲洋
			配当学年：一部2年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目（「子ども家庭支援の心理学」）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題を理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。			
授業の概要 主な内容としては、①生涯発達の理論に基づいて各発達段階における発達課題と心理社会的危機について学修する。②家族・家庭の機能に関する社会学的理論に基づいてさまざまな家族・家庭の在り方について検討する。③家族・家庭の問題について因果的な理解を越えてシステム論的な視点からとらえ直しをおこなう。④子どものウェル・ビーイングに影響を与える家族・家庭を含めた社会環境要因を考察する。授業方法としては、講義、グループ・ディスカッション、発表などを組み合わせておこなう。			
授業計画 第1回：ガイダンスとイントロダクション：講義の概要、子ども家庭支援の心理学で学ぶこと 第2回：発達とは：生涯を通じた変化、各発達段階における発達課題と危機 第3回：生涯発達(1)：乳幼児期から幼児期にかけての発達 第4回：生涯発達(2)：児童期から思春期・青年期にかけての発達 第5回：生涯発達(3)：成人期から高齢期にかけての発達 第6回：道徳性の発達 第7回：対人関係の発達 第8回：集団機能の社会学的理解 第9回：家族・家庭の在り方を考える 第10回：システム論とは 第11回：家族・家庭のシステム論的理解 第12回：家族・家庭の発達 第13回：子どもの生活・生育環境としての家族・家庭：虐待・ネグレクト等 第14回：子どものウェル・ビーイングを考える 第15回：まとめと定期試験 ※前回の授業内容は、次回までにしっかりと理解しておくこと。不明な点については、自主学習や受講生間の協同学習、教員への質問などにより必ず解消しておくこと。			
テキスト テキストは特に使用しない。必要に応じて講義中に資料を配付する。			
参考書・参考資料等 吉川悟(編) (1999). システム論からみた学校臨床 金剛出版			
学生に対する評価 15回目の講義中に実施する試験において、合格点(100点満点中、60点以上)を満たせば、単位を認定する。			

あ授業科目名： 子どもの理解と援助	学則に定める必修/選択の別 必修科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名：竹内真悟
			配当学年：一部2年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	生徒指導、教育相談等に関する科目（幼児理解の理論及び方法）		
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目（「子どもの理解と援助」）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ (1) 一般目標：幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。 到達目標：1) 幼児理解の意義を理解している。 2) 幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解している。 3) 幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している。 (2) 一般目標：幼児理解の方法を具体的に理解する。 到達目標：1) 観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。 2) 個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。 3) 幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解している。 4) 保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。			
授業の概要 幼児が経験する「つまずき」の意味を理解するためには、集団と個の関係、背景にある家庭や地域とのつながり、発達や学びの過程への理解が欠かせない。保育現場における幼児理解の意義を理解し、心理と保育の視点から保育実践を考察し、記録し、共有する方法を身に付ける。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：養護及び教育の一体的展開（1）-1） 第2回：子ども理解はなぜ大切か：気になる行動と幼児理解の方法（1）-1）、（1）-2） 第3回：幼児の愛着形成と他者の役割：安全基地と分離不安（1）-2）、（1）-3） 第4回：幼児の認知発達と他者の役割：年齢による遊びの変化（1）-2）、（1）-3） 第5回：幼児を取り巻く世界の広がり：家族関係と援助資源（1）-3）（2）-2）、（2）-4） 第6回：幼児の「つまずき」の意味：子ども理解の様々な視点（1）-3）、（2）-3） 第7回：「つまずき」への対応1：共感的理解の視点から（1）-3）、（2）-3） 第8回：「つまずき」への対応2：客観的理解の視点から（2）-1）、（2）-2）（2）-3） 第9回：理解を深めるための振り返り1：保育場面の観察と記録（2）-1）、（2）-2） 第10回：理解を深めるための振り返り2：PDCAと仮説検証（2）-1）、（2）-2） 第11回：エピソードの捉え方（2）-3）、（2）-4） 第12回：エピソード記録の実際（2）-1）、（2）-2） 第13回：子ども理解を共有する1：ケースカンファレンス（2）-1）、（2）-2） 第14回：子ども理解を共有する2：保護者対応（2）-3）、（2）-4） 第15回：定期試験とまとめ			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)			
学生に対する評価 毎回の振り返りと課題への取り組み(40%)、試験(60%)によって評価する。 事後学習(2時間)…Google Formで振り返りを提出、事前学習(2時間)…予習課題へ取り組む			

授業科目名： 子どもの保健	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：遠藤 由美子 配当学年：一部 2 年 担当形態：講義
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目（「子どもの保健」）		
担当教員の実務経験	—		
<p>授業の到達目標及びテーマ：保育は、子どもの身体的・精神的発達の維持・増進を図る実践活動である。健康な子どもの健やかな成長のその実践活動の基盤に、医学分野である小児保健の知識が必要であることを理解する。また、母子保健も含まれること、子どもの健康は制度によって社会的に守られなければならないこと等を知る。更に、幸せな人間としての成長に携わる保育の基本に子どもの保健があることを学ぶ。</p>			
<p>授業の概要：遠隔授業と対面授業の併用。保育における子どもの保健の位置づけを理解し、健康な子どもを中心に、成長とともに変化する身体と精神の発達を学ぶ。さらに、子どもが罹りやすい病気の対応と予防、先天的疾患、感染症、事故の予測と予防、対応について学び、個々の子どもの健康状態や保健上の問題を判断し適切に対応できる基本的知識を得る。また、子供の保健に関する制度と現状・課題について考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回：オリエンテーション 子どもの健康と保健の意義（生命の保持と母性・父性の育成、健康とは）</p> <p>第 2 回：健康の概念と健康指標</p> <p>第 3 回：現代社会における子どもの健康に関する現状と課題</p> <p>第 4 回：地域における保健活動と子ども虐待防止（課題 1）</p> <p>第 5 回：身体発育及び運動機能の発達と保健</p> <p>第 6 回：生理機能の発達と保健 生理機能の発達①（呼吸器、循環器、免疫、消化器） 生理機能の発達②（尿排泄機能、水分代謝、体温調節、内分泌機能） 生理機能の発達③（睡眠、感覚、神経、精神、情緒、行動）（課題 2）</p> <p>第 7 回：健康状態把握及び心身の不調等の早期発見の重要性</p> <p>第 8 回：発育・発達の把握と健康診断</p> <p>第 9 回：保護者との情報共有</p> <p>第 10 回：子どもの主な疾病の特徴①先天異常（課題 3）</p> <p>第 11 回：子どもの主な疾病の特徴②循環器系・呼吸器系・血液・消化器（課題 4）</p> <p>第 12 回：子どもの主な疾病の特徴③アレルギー・泌尿器系・内分泌代謝（課題 5）</p> <p>第 13 回：子どもの主な疾病の特徴④脳・運動器・耳・眼・皮膚・歯の病気（課題 6）</p> <p>第 14 回：子どもの主な疾病の特徴⑤感染症（課題 7）</p> <p>第 15 回：予防接種（課題 8）</p>			
<p>テキスト：子どもの保健 谷田貝公昭監修、吉田直哉・糸井志津乃編著</p>			
<p>参考書・参考資料等：保育所保育指針解説平成 29 年 3 月告示 厚生労働省</p>			
<p>出席確認：出席は 3 分の 2 以上とする。</p> <p>出席確認方法：出席カード、点呼又は目視確認。（オンラインの場合は、オンライン入室時にチャットにて入室を知らせるメールと学籍番号を入力する。授業の始まりにビデオ映像オンにした状態で教員が写メを撮り、映像による確認を行う。ビデオオンの指示に従わない場合は欠席扱いにする。授業内で指示によりリアクションを求める。リアクションがない場合、早退遅刻扱いとする。）</p> <p>学生に対する評価：①提出課題 80 点、②授業参加態度・興味・関心・主体性、20 点</p> <p>* 授業を欠席した際には、その授業の課題は原則として受理しない。</p> <p>1 ②を合計で 100 点。80 点以上「優」、70～79 点「良」、60～69 点「可」、59 点以下「不可」とする。</p>			

授業科目名： 子どもの食と栄養	学則に定める必修／選択の別 必修	単位数： 2単位 (演習)	担当教員名：松本辰子 配当学年：一部2年 担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「子どもの食と栄養」）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ <ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活を基本として食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 ・子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 ・保育における食育の意義・目的、基本的考え方について理解する。 ・家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 ・特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 			
授業の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身共に健康な体づくりのために、保育者として必要な食と栄養の知識・調理技術を習得し、自らも望ましい食生活を実践できるようにする。また、保育における食育の重要性を理解し、保護者や子どもに指導ができる専門性を養う。 			
授業計画 <p>第 1 回：①ガイダンス（演習計画・評価法） ②子どもの心身の健康と食生活・現状と課題</p> <p>第 2 回：③栄養に関する基本的知識〔栄養の基本的概念〕 ④栄養に関する基本的知識〔炭水化物〕</p> <p>第 3 回：⑤栄養に関する基本的知識〔脂質・たんぱく質〕 ⑥栄養に関する基本的知識〔無機質・ビタミン・水〕</p> <p>第 4 回：⑦栄養に関する基本的知識〔食べ物の消化と吸収〕 ⑧栄養に関する基本的知識〔食事摂取基準・献立作成〕</p> <p>第 5 回：⑨栄養に関する基本的知識〔食の安全・調理の基本・衛生管理〕</p> <p>⑩子どもの発育・発達と食生活〔乳児期の栄養・食生活・乳汁栄養・離乳〕</p> <p>第 6 回：⑪調乳実習 ⑫離乳食初期の調理実習</p> <p>第 7 回：⑬子どもの発育・発達と食生活〔幼児期の栄養・食生活・食行動〕 ⑭食物アレルギーについて</p> <p>第 8 回：⑮⑯離乳食中期～後期の調理実習</p> <p>第 9 回：⑰子どもの発育・発達と食生活〔学童期・思春期の食生活〕</p> <p>⑱家庭や児童福祉施設における食事と栄養・特別な配慮を要する子どもの食と栄養</p> <p>第 10 回：⑲子どもの発育・発達と食生活〔妊娠期・授乳期の栄養〕 ⑳妊娠期の栄養を考慮した献立作成</p> <p>第 11 回：㉑保育所等における食育〔食育基本法・保育所保育指針〕 ㉒食育だよりを作ろう〔演習の進め方〕</p> <p>第 12 回：㉓食育課題の選定・文献調査〕 ㉔食育だより〔指導案の作成〕</p> <p>第 13 回：㉕㉖食育だよりの作成</p> <p>第 14 回：㉗㉘食育だよりの発表・講評</p> <p>第 15 回：㉙食育だよりの発表・講評 ㉚筆記試験</p>			
テキスト <p>「最新子どもの食と栄養」学建書院</p>			
参考書・参考資料等 <p>必要に応じて資料を配付</p>			
学生に対する評価 <p>筆記試験60%</p> <p>提出物・授業および実習態度40%（特に実習は欠席しないこと）</p>			

授業科目名： 教育課程総論	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名： 笹井 美佐 配当年次： 一部1年 担当形態： 単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目（教育課程の意義及び編成の方法 カリキュラム・マネジメントを含む）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「保育の計画と評価」）		
担当教員の実務経験	幼稚園教諭		
授業の到達目標及びテーマ ① 保育・教育課程編成の目的や意義に関して、基本的な理解を深める。 ② 保育所保育指針・幼稚園教育要領の理解を踏まえ、カリキュラム・マネジメントの基礎的な考え方を身につける。 ③ 指導計画の作成を通して、子ども理解に基づく計画（PDCA サイクル）の過程を学び、子ども一人一人に対する適切な援助・支援について考える。			
授業の概要 ・ 保育・教育課程の理論や歴史の変遷、現在の保育制度における保育・教育課程の基本的な考え方を理解する。 ・ 保育・教育課程や指導計画の策定・編成の特徴や方法を踏まえ、子ども理解に基づく指導計画の作成方法を学ぶ。			
授業計画 第1回： オリエンテーション・「教育課程」とは 第2回： 保育における計画の意義 第3回： 日本におけるカリキュラムの基礎理論（1）（幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教・保育要領について） 第4回： 日本におけるカリキュラムの基礎理論（2）（カリキュラムの歴史 明治～昭和初期） 第5回： 日本におけるカリキュラムの基礎理論（3）（カリキュラムの歴史 倉橋以降～現代） 第6回： カリキュラム・マネジメントとは 第7回： 幼稚園における教育課程と指導計画の実際 第8回： 保育所における保育課程と保育の実際 第9回： 長期の指導計画の実際 第10回： 短期の指導計画の実際（1）（短期指導計画の作成） 第11回： 短期の指導計画の実際（2）（短期指導計画に基づく実践 ①） 第12回： 短期の指導計画の実際（2）（短期指導計画に基づく実践 ②） 第13回： 保育の評価 第14回： 小学校との接続 第15回： 本授業の振り返り及びまとめ			
テキスト ・ 指定しない。 ・ 必要に応じてプリントを配布する。			
参考書・参考資料等 ・ 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・ 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）			
学生に対する評価 ①レポート（60%）、②提出物（30%）、③授業態度（10%）で総合的に評価する。			

授業科目名： 保育内容指導法 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1 単位 (演習)	担当教員名： 清水かおり 配当学年：一部 1 年 担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目 (保育内容の指導法)		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目 (「保育内容総論」)		
担当教員の実務経験	幼稚園教諭 (6 年)、保育士・保育教諭 (7 年)		
授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の概要から保育の全体構造を理解する。 2. 子どもの発達や実態に即した保育の実践を、子どもを取り巻く社会的背景及び保育の歴史の変遷等とつなげて理解する。 3. 保育の内容を総合的に捉え、具体的な指導の考え方と保育計画について理解する 4. 保育の質を高める情報機器の効果的な活用方法とその留意点について理解する 			
授業の概要			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児期から幼児期の発達過程や個々の子どもの実態に即した指導・援助の基礎知識と具体的な方法について、実践事例や視聴覚教材を用いて学んでいく。 2. 子どもの実態から発達を見通した具体的な保育の計画を作成する。 3. 教科書と資料映像を元にした講義とグループワークに加え、遊びの体験を交えて学んでいく。 			
授業計画			
第 1 回： 授業についてのオリエンテーション、保育内容について子どもの姿から考える 第 2 回： 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」等における保育内容と指導の捉え方 第 3 回： 子ども理解と評価の考え方 (情報機器等の活用を含む) 第 4 回： 指導計画の構造と作成の理解 第 5 回： 遊びや生活を通して学ぶということ 第 6 回： 養護と教育が一体的に展開する保育 第 7 回： 子どもの主体性を尊重する保育 (情報機器等の活用を含む) (1) 活動と遊び 第 8 回： 子どもの主体性を尊重する保育 (2) 環境 第 9 回： 環境を通して行う保育 (1) 子どもの育ちの保障 第 10 回： 環境を通して行う保育 (2) 保育のデザイン 第 11 回： 「個」と「集団」の育ち 第 12 回： 家庭や地域との連携による子育て支援 (情報機器等の活用を含む) 第 13 回： 学びと育ちの連続性 (小学校への接続) をふまえた保育 第 14 回： 保育の多様な展開と現代的保育の課題 第 15 回： 保育の内容の歴史の変遷と社会的背景			
テキスト 『保育内容総論』 渡邊英則編著 (ミネルヴァ書房)			
参考書・参考資料等			
幼稚園教育要領(平成 29 年 3 月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 保育所保育指針 (平成 29 年 3 月告示 厚生労働省) その他適宜資料を配布する			
学生に対する評価			
ワークシート課題 (50%) と期末のレポート (50%) により総合評価を行う			

授業科目名： 健康 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1 単位 (演習)	担当教員名： 坂吉美代
			配当学年：一部 2 年
			担当形態： 単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（保育内容の指導法）		
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目（「保育内容演習」）		
担当教員の実務経験	保育士（保育所：23 年）園長（保育所：16 年）		
授業の到達目標及びテーマ ① 領域「健康」の「ねらい」「内容」について理解し、習得、保育活動の中で実践できるようにする。 ② 幼児の健康の諸問題について学び、問題解決できるように、自ら指導の仕方を考えるようにする。 ③ 心身共に健康な子どもの姿・発達の実態に関して興味関心を持ち発達の道筋を理解した上で、運動遊びの指導計画・領域健康をめざすものを考え、健康に関わる内容についての指導計画を立てる。 ④ 基本的な生活習慣・食育・心身の健康・運動の充実・安全、衛生管理について理解し説明できる。			
授業の概要 ・ 幼児期における健康の意義と領域「健康」のねらいと内容について知り、子どもの体の発達や運動発達の実態について捉える。具体的には、領域健康の考え方、子どもの健康をめぐる現状と課題、子どもの健康と遊び、基本的な生活習慣や食育との関わり、現場における安全・衛生管理などについて論じる。 ・ 運動遊びや健康に関わる指導計画の作成、発表、意見交換などを通して実践に繋げていく。			
授業計画 第 1 回：オリエンテーション「健康」とは何か。健康の概念について 第 2 回：幼稚園教育要領・保育所保育指針における、幼児教育の捉え方、領域「健康」のねらいと内容を知る。 第 3 回：子どもの育ちについて学び、子どもの身体的発達・発達の様子について知る。 第 4 回：子どもの「健康」をめぐる現状と課題 最近の子どもたちの現状と運動能力について知る。 第 5 回：子どもの健康と遊び（1）ルールのある遊びについて知る。 第 6 回：子どもの健康と遊び（2）道具を使った遊びについて知る。 第 7 回：子どもの健康と遊び（3）固定遊具を使った遊びについて知る。 第 8 回：子どもの健康と遊び（4）さまざまな遊びについて知る。 第 9 回：子どもの健康と環境構成（1）自然環境を活用した遊びについて知る。 第 10 回：子ども健康と環境構成（2）子どもの自発的な遊びを引き出す保育の工夫について考える。 第 11 回：運動遊びのまとめとして、遊びの計画を立て発表、他者から互いに意見を受ける。 第 12 回：子どもの生活習慣について学び、基本的な生活習慣とその意義および獲得について知る。 第 13 回：子どもの健康と安全教育について学び、安全・衛生管理について考える。 第 14 回：健康にかかわる内容についての指導計画を立て発表、他者から互いに意見を受ける。 第 15 回：授業の振り返りとまとめ・期末試験			
テキスト 指定しない 必要に応じてプリントを配布			
参考書・参考資料等 『新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 健康』無藤 隆、倉持 清美編著 萌文書林 幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）			
学生に対する評価 期末試験もしくはレポート（80%）、提出物（10%）、授業態度（10%）で総合的に評価する。			

授業科目名： 人間関係I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名：渡辺泉
			配当学年：一部1年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（保育内容の指導法）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「保育内容演習」）		
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（幼稚園・41年）、保育士（保育園・2年）		
授業の到達目標及びテーマ			
<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいや内容について説明できる。 ・乳児期のかかわりの重要性について、自分の言葉で説明できる。 ・目に見える子どもの行動や表情から心の動きを推測し、園生活の視点から理解できる。 			
授業の概要			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児期に育てたい豊かな人間関係とは何か、幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領をもとに、子どもの発達段階に沿ったかかわりを考える。 2. 年齢ごとの社会性の発達を理解し、調べ学習を行い、グループワークでの取り組みを発表する。 3. 乳児期のかかわりの重要性について、親子関係を中心としながら多面的に理解できるように展開していく。幼児期の遊びや生活の中で育つ力について考え、人間関係の発達を理解して、保育者の役割を理解できるように展開する。 			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、保育内容「人園関係」とは			
第2回：自己の経験を振り返るワークショップ			
第3回：現代社会におけるかかわりの喪失			
第4回：保育内容「人間関係」の基本的な理解			
第5回：乳児の発達とかかわりの育ち ～0・1・2歳児の発達を理解し、関わりの援助を考える～			
第6回：乳児の発達とかかわりの育ち ～親子のかかわりと人格形成の基盤を考える～			
第7回：幼児の発達とかかわりの育ち ～3・4・5歳児の発達を理解し、関わりの援助を考える～			
第8回：幼児の発達とかかわりの育ち ～幼児が多様な人とかわるの体験の必要性を考える～			
第9回：かかわりを見つめる視点 ～子ども主体の保育と人間関係～ ※保育現場の映像を視聴			
第10回：かかわりを見つめる視点 ～集団の中で育つ人間関係「けんかの中で育つ力」～			
第11回：グループワークを通して集団での遊びを考える			
第12回：自分たちで考えた集団での遊びを実践し、指導案を作成する			
第13回：自己肯定感と人間関係の育ちを考える。～集団の中で育つ人間関係の課題～			
第14回：幼児教育の現代的課題と保育内容「人間関係」			
第15回：まとめと試験			
テキスト			
『事例で学ぶ保育内容<領域>人間関係』 無藤隆監修 岩立京子・赤石元子編著（萌文書林）			
参考書・参考資料等			
幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)			
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)			
保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)			
適宜、資料プリントを配布する。			
学生に対する評価 : 試験：50% 課題提出と振り返り：40% 授業態度：10%			
◎成績評価は、受講形態の違いでの影響なく行う。			
出席確認 : 開始時出席確認をし、遅刻早退は板書して入退出、最後は授業の振り返りを記入する			

授業科目名： 環境 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名：大嶋織江
			配当学年：一部1年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（保育内容の指導法）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「保育内容演習」）		
担当教員の実務経験	幼稚園教諭		
授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> 1 幼児にとっての環境の大切さを学ぶ 2 幼児が意欲的にかかわる環境づくりを学ぶ 3 学習したことと実際の保育とを結びつけるため、具体的イメージを持てるようにする。 			
授業の概要			
<p>幼児は、環境と能動的に関わることを通して生きる力を獲得していく。そのため、保育環境を整えることは大変重要なため、どのように構成していくのか考える。その環境の中で幼児が具体的にどのような遊びを展開し、どのような力を獲得していくのか、さらに保育者の援助はどうあるべきなのかなどについて、具体的な事例や写真をもとに考えていく。学生自身も環境のひとつとして立居振る舞いに気を付け、環境に鋭く反応できる保育者になることを目指す。</p>			
授業計画			
第1回：領域「環境」とは…。(自己紹介とオリエンテーション)			
第2回：子どもの育ちにかかわる現代の生活環境とその課題（物、生き物、自然に関する問題など）			
第3回：乳幼児期における環境へのかかわり			
第4回：幼児期前半における環境へのかかわり			
第5回：幼児期後半における環境へのかかわり			
第6回：物とのかかわりににおける子どもの育ち			
第7回：ごっこ遊びの体験（お寿司屋さんごっことグループワーク）			
第8回：自然・季節とのかかわりににおける子どもの育ち			
第9回：地域社会・施設とのかかわりににおける子どもの育ち			
第10回：絵本『しずくのぼうけん』物語の絵を描く（下書き）			
第11回：絵本『しずくのぼうけん』物語の絵を描く（色塗り）と絵の発表			
第12回：ごっこ遊びの体験（パン屋さんごっこ）～もくねんさんの粘土を使ってのパン作り（形づくり）～			
第13回：ごっこ遊びの体験（続き パン屋さんごっこ）～もくねんさんの粘土を使ってのパン作り（色塗り）とグループワーク			
第14回：情報環境・文化財とのかかわりににおける子どもの育ち			
第15回：授業の振り返りとまとめ ～子どもの環境へのかかわりを促す保育者の役割とは～			
テキスト			
シードブック『保育内容 環境 第3版』榎沢良彦・入江礼子編著 建帛社 2019年4月			
参考書・参考資料等			
幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)			
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)			
保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)			
学生に対する評価：授業中に点呼により出席確認を行う。グループワーク、発表、振り返りシート、レポートなど。			

授業科目名： 言葉Ⅰ	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (演習)	担当教員名：甲田 美香
			配当年次：一部1年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目(保育内容の指導法)		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目(「保育内容演習」)		
担当教員の実務経験	幼稚園教諭		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>5領域の1つである「言葉」という側面から子ども理解や実際の保育方法について学ぶ。子どもの発達過程に即した子ども理解と共に、園の子どもたちの生活や遊びに着目し、テキストや事例研究などを中心に、考察力や実践力を習得する。</p> <p>児童文化財(絵本・紙芝居など)を中心に実践的に身につけられるよう授業を展開する。</p>			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・領域「言葉」を子どもの生活や遊びと関連付けて理解する。 ・乳幼児の言葉の発達過程や言葉の果たす役割を理解する。 ・児童文化財の概要を理解し、児童文化財を活用した指導規格の立案や実践を行う。 ・事前学習としてはテキストや調べ物を中心に課題を指定する。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション／子どもの言葉とは何か</p> <p>第2回：領域「言葉」について</p> <p>第3回：乳幼児期の発達と領域「言葉」</p> <p>第4回：多様な感情体験とことば</p> <p>第5回：信頼関係から生み出されることば</p> <p>第6回：自分の考えや思いを伝えることば</p> <p>第7回：文字との出会い</p> <p>第8回：ごっこ遊びとことば</p> <p>第9回：ことばを育む児童文化財について／児童文化財①絵本、物語など</p> <p>第10回：児童文化財②紙芝居など</p> <p>第11回：児童文化財③わらべうた、言葉遊びなど</p> <p>第12回：絵本から劇遊びへ①</p> <p>第13回：絵本から劇遊びへ②</p> <p>第14回：幼児教育の現代的課題と領域「言葉」</p> <p>第15回：定期試験／まとめ・総論</p>			
<p>テキスト</p> <p>新訂 事例で学ぶ保育内容<領域>言葉 著者：宮里暁美 出版社：萌文書林</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>幼稚園教育要領</p> <p>幼保連携型認定こども園教育</p> <p>保育要領、保育所保育指針</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>課題30%、授業への積極的参加態度30%、定期試験40%</p>			

授業科目名： 表現 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名：鈴木恵利子
			配当学年：一部1年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（保育内容の指導法）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「保育内容演習」）		
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（幼稚園・40年）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>表現とは心が開いてそこから出てくるものでそれを育ていくのが表現教育である。「子どもが安心して心を開き勇気や自信をもって表現する力」を育むためには、保育者は表現をどのように捉え、どのような受容の仕方や援助の方法が望ましいのかについて探求する。さらに、保育者を目指すところの、表現者としての自分を見つめることをも促したい。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育・保育要領にある「表現」の内容を理解するとともに、子どもの内面の育ちを豊かに育むための環境や保育の在り方を実技・講義を通して考え、保育の実践につながるものとなるよう深める。また、「表現」とは何かについて押さえながら、グループ学習により、子どもの年齢や発達にあわせた表現活動の適性について実技体験を通して学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1回：オリエンテーション 表出から表現へ・授業の内容と方法 第 2回：保育内容・領域「表現」について 第 3回：表出から表現へ 表出の喜びと表現の喜び・講義と実技 第 4回：自然を感じる心と感性 自然の中で表現あそび 第 5回：表現と感性 「あrawし」と「うけとめ」 第 6回：子どもの心を考える 生活の中で子どもの表現 第 7回：心の表現と受け止める心をエピソードから学ぶ 第 8回：「描きあrawし」の楽しさ・リズムで遊ぶ 第 9回：お話作りから「手のひら絵本」作り 第10回：「手のひら絵本」発表 第11回：素材との出会い 教材研究から部分実習・責任実習指導案作り 第12回：指導案をもとに模擬授業 第13回：総合的な表現活動、ごっこ遊びから劇あそびへと 第14回：総合的な表現活動、言葉、身体で表現する楽しさ・伝え合う喜び 第15回：まとめ・テスト</p>			
<p>テキスト</p> <p>『心ふれあう 子どもと表現』松家まきこ・鈴木範之編・授業者の配布資料</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>大場牧夫著『表現原論』、萌文書林、2008 無藤隆(監修)『領域 表現』、萌文書林、2018 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>筆記試験（60％） 毎回の授業に対する取り組み・課題・提出物（40％） を総合的に評価する</p>			

授業科目名： 乳児保育 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名：田村雅美
			配当学年：一部1年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「乳児保育 I」）		
担当教員の実務経験			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>乳児保育の意義・目的・役割を学び理解する。 3歳未満児の発育、発達を知り、保育所保育指針に添った実際の保育の全体像をつかむ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>乳児保育の意義や3歳未満児の発達を学び、乳児にとってより良い保育とはどのようなものか考えていける講義をおこなう。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：乳児とは。赤ちゃんの育つ場所 第2回：乳児保育の意義・歴史的な変遷 第3回：乳児保育の目的 第4回：0, 1, 2歳児の発達 第5回：0歳児の保育内容 第6回：1, 2歳児の保育内容 第7回：乳児の生活と日課 第8回：乳児の生活の基本 食事・睡眠 第9回：乳児の生活の基本 排泄・着脱・清潔 第10回：乳児保育における安全対策・防災対策 第11回：乳児のあそびと教具教材 第12回：乳児保育の環境構成 第13回：保育計画 第14回：乳児保育と保護者対応・子育て支援 第15回：振り返りと試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>「講義で学ぶ乳児保育」 小山朝子 編者 亀崎美沙子 善本眞弓 わかば社</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>保育所保育指針 平成29年3月告示厚生労働省</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業に向かう姿勢・提出物（20%） 試験（80%）</p>			

授業科目名： 乳児保育Ⅱ	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2 単位 (演習)	担当教員名：井上めぐみ
			配当年次：一部1年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「乳児保育Ⅱ」）		
担当教員の実務経験	保育士（公立保育所8年）幼稚園教諭（私立幼稚園2年）		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>目標：①3歳未満児の発育・発達のプロセスと特性をふまえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。</p> <p>②3歳未満児の生活やあそび、保育の方法と環境について理解する。</p>			
授業の概要			
<p>この授業では3歳未満児に対する保育の方法を、演習と講義を通して具体的に学んでいく。3歳未満児はおとなの助けが必要であるが、子どもであってもひとりの人間としての意志や思いを尊重される存在であるという子ども観を身に着けていくことを目的とする。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：3歳未満児の発達の特徴とその理解			
第3回：0歳児の保育 基本的な関わり方と環境構成			
第4回：0歳児の保育② おむつ交換・着替え			
第5回：0歳児の保育③ 沐浴			
第6回：0歳児の保育④ 発達とそれを促すあそび			
第7回：0・1歳児の保育 睡眠・離乳食			
第8回：1歳児の保育 発達への理解			
第9回：1歳児の保育② あそびと環境			
第10回：2歳児の保育 発達への理解			
第11回：2歳児の保育② あそびと環境			
第12回：乳児保育における配慮の実際			
第13回：事例検討（グループディスカッション）			
第14回：まとめ			
第15回：振り返り 試験			
テキスト			
保育所保育指針 レジュメを配布			
参考書・参考資料等			
必要があれば授業内で紹介する			
学生に対する評価			
授業への姿勢 10% 提出物 20% 試験 70%			

授業科目名： 子どもの健康と安全	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名：遠藤 由美子
			配当学年：一部2年
			担当形態：演習
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「子どもの健康と安全」）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ：保育における保健的観点から、保育環境や援助について知識を深める。また、各種ガイドラインを用いた、安全対策を保育の視点で理解する。さらに、子どもの健康や安全の管理について組織的取り組みや保健活動の計画や評価方法について具体的に理解する。			
授業の概要：遠隔授業と対面授業の併用で遠隔授業を主とする。子どもの保健実習の必要性を理解する。健康状態の観察、子どもの身体測定、生理機能の測定、精神・運動発達機能の評価と記録の方法を学ぶ。また、乳幼児の日常生活上の保育環境と養護の実際、異常時の看護・怪我や事故時の応急処置・心肺蘇生法の演習において、技術習得と判断力の訓練を行う。			
授業計画			
第1回：子どもの健康と保育環境（課題1）			
第2回：子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理（課題2）			
第3回：保育における衛生管理（課題3）			
第4回：保育における事故防止と安全対策、危機管理（課題4）			
第5回：保育における災害への備え（液体ミルクや使い捨て哺乳瓶）（課題5）			
第6回：体調不良及び障害発生時の応急処置と対応（課題6）			
第7回：救急処置及び救急蘇生法（AEDの使用方法）（課題7）			
第8回：感染症の集団発生の予防と発生後の対応（ノロウイルスの対応・手袋のはめ方・外し方おむつの捨て方）（課題8）			
第9回：保育における保健的対応（課題9）			
第10回：3歳児未満児への対応（子どもの扱い方）（課題10）			
第11回：個別的な配慮を要する子どもへの対応（慢性疾患・アレルギー性疾患）（課題11）			
第12回：障害のある子どもへの対応（歯磨きの仕方）（課題12）			
第13回：職員間の連携・協働と組織的取り組み（家庭・専門機関・地域の関係機関）（課題13）			
第14回：保育における保健活動の計画及び評価（課題14）			
第15回：心豊かな子どもに育てるために（課題15）			
テキスト：保育者養成シリーズ 子どもの健康と安全 林邦雄・谷田貝公昭監修 株式会社 一藝社			
参考書・参考資料等 保育所保育指針解説平成29年3月告示 厚生労働省			
出席について：出席は3分の2以上とする。			
出席確認方法：出席カード、点呼又は目視確認。（オンライン入室の場合、オンライン入室時にチャットにて入室を知らせるメールと学籍番号を入力する。授業の始まりにビデオ映像オンにした状態で教員が写メを撮り、映像による確認を行う。ビデオオンの指示に従わない場合は欠席扱いにする。授業内で指示によりリアクションを求める。リアクションがない場合、早退遅刻扱いとする。）			
学生に対する評価：①授業課題80点、②授業参加態度・自宅学習の成果・主体性、20点 *授業を欠席した際には、その授業の課題は原則として受理しない。			
A：課題1～10 ①②を合計で100点。B：課題11～15 ①②を合計で100点 (A+B) ÷ 2			
80点以上「優」、70～79点「良」、60～69点「可」、59点以下「不可」とする。			

授業科目名： 特別支援教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位 (演習)	担当教員名：岩羽紗由実 配当学年：一部1年 担当形態：単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目 (特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解)		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目(「障害児保育」)		
担当教員の実務経験	教諭(小学校・11年)		
授業の到達目標及びテーマ 通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。			
授業の概要 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達、教育課程や支援の方法を理解する。また、障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 障害・特別な教育的ニーズとは何か 第2回：特別支援教育(障害児保育)の理念、インクルーシブ教育(保育)、特別支援教育の制度 第3回：障害の概念(ICFの障害)と歴史の変遷 第4回：障害の理解と発達の援助(発達障害(学習障害LD 注意欠陥多動性障害ADHD)) 第5回：障害の理解と発達の援助(発達障害(自閉症スペクトラム障害ASD)) 第6回：障害の理解と発達の援助(知的障害) 第7回：障害の理解と発達の援助(肢体不自由) 第8回：障害の理解と発達の援助(病弱児 医療的ケア児) 第9回：障害の理解と発達の援助(視覚障害) 第10回：障害の理解と発達の援助(聴覚障害：言語障害) 第11回：障害の理解と発達の援助(重症心身障害児) 第12回：障害の受容について 第13回：保護者の支援(特別支援教育コーディネーターと特別支援学校) 第14回：関係機関の連携(幼稚園 保育園 小学校 発達支援センター 医療・保健などの機関) 第15回：まとめ 確認試験 第16回：支援の方法の基本 教育課程(通級、訪問、自立活動) 第17回：支援の方法と個別教育支援計画(発達障害) 第18回：支援の方法と個別教育支援計画(知的障害) 第19回：支援の方法と個別教育支援計画(肢体不自由) 第20回：支援の方法と個別教育支援計画(病弱児 医療的ケア児) 第21回：支援の方法と個別教育支援計画(視覚障害) 第22回：支援の方法と個別教育支援計画(聴覚障害と言語障害) 第23回：支援の方法と個別教育支援計画(重症心身障害児) 第24回：支援の実際(障害児のアセスメント) 第25回：支援の実際(支援体制づくり) 第26回：支援の実際(ムーブメント教育・療法) 第27回：幼稚園 保育園 認定こども園での統合保育の実際(環境 人間関係 健康安全) 第28回：その他の教育的ニーズをもつこどもの理解と支援 外国につながる子ども・貧困等 第29回：障害のある子どもの保育に関わる現状と課題 第30回：まとめ 確認試験			
テキスト 前田泰弘編著「実践に生かす 障害児保育・特別支援教育」(株)萌文書林 2019			
参考書・参考資料等 ・よくわかる障害児保育 尾崎康子編著 (株)ミネルヴァ書房 2019 ・シリーズ 知のゆりかご ライフステージを見通した障害児の保育・教育 (株)みらい 2018			
学生に対する評価 授業態度(40%) レポート(30%) 試験(30%)			

授業科目名： 社会的養護Ⅱ	学則に定める必修／選択の別 選択科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名：密城吉夫
			配当学年：一部1年
			担当形態：単独
—	—		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目		
担当教員の実務経験			
授業の到達目標及びテーマ 社会福祉の法体系及び施設養護の実際について理解する。			
授業の概要 実践例を取り入れながら利用者への援助の方法・技術について理解する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、授業内容の説明、措置、児童相談所の現場 第2回：児童自立支援の現状 児童養護の措置 措置停止後の事例 第3回：社会福祉施設における児童養護の事例 第4回：社会福祉施設における児童養護の実際 第5回：社会福祉施設における児童養護の特質 第6回：社会保障と養護内容の関係 第7回：出生率における社会の変化と対応 第8回：児童手当の変遷と父子家庭 第9回：施設外の養護支援 第10回：社会的養護の変遷 第11回：養護における先駆的な役割を果たした人物を振り返る 第12回：社会福祉の法体系の視点から社会的養護の支援を考える 第13回：自閉症児とアスペルガー症候群への支援 第14回：LD(学習障害)とADHD(注意欠如多動性障害)への支援 第15回：振り返り、試験			
テキスト テキストは使用しない。			
参考書・参考資料等 必要に応じて資料を配布。資料用のファイルを各自で持参。			
学生に対する評価 参加態度(40%)、試験(60%)を総合して判断する。試験については、60点以上を合格点とする。			

授業科目名： 子育て支援	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名：古谷淳
			配当学年：一部2年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「子育て支援」）		
担当教員の実務経験	古谷：（保育士4年）		
授業の到達目標及びテーマ 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。			
授業の概要 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。			
授業計画 第1回： 子育て支援とは 第2回： 子育て支援の意義 第3回： 子育て支援の基本的価値・倫理 第4回： 子育て支援の基本姿勢 第5回： 子育て支援の基本的技術 第6回： 園内・園外との連携と社会資源 第7回： 記録・評価・研修 第8回： 日常会話を活用した子育て支援 第9回： 文章を活用した子育て支援 第10回： 行事などを活用した子育て支援 第11回： 環境を活用した子育て支援 第12回： 地域子育て支援拠点における支援 第13回： 入所施設における子育て支援 第14回： 通所施設における子育て支援 第15回： テスト			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 各自ノート・ルーズリーフを用意する			
学生に対する評価 授業評価20%、テスト80%			

授業科目名： 教育の方法と技術	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2 単位 (講義)	担当教員名： 齋藤澄子
			配当学年：一部1年
			担当形態： 単独
教員養成課程の区分	生徒指導・教育相談等に関する科目		
保育士養成課程の区分	学校独自の科目		
担当教員の実務経験	小学校教員28年 小学校管理職6年 教育委員会指導主事4年		
授業の到達目標及びテーマ			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児や児童の発達の特徴を踏まえた教育方法の理論を理解する。 ・ 幼保小連携の具体的な事例を通してより実践的な指導技術を身に付ける。 ・ 情報機器の効果的な活用、視聴覚教材の作成方法等 I C T 教育の活用についての理解を深める。 			
授業の概要			
<p>幼児期における教育場面に限定せず、園児が成長していく過程で経験する教育・学習活動全般に見通しをもって子どもと関わるができるように、子どもと関わる教育者としての学びを培い、教育方法についての理解を深め実践的な指導技術を身に付ける。また情報機器の効果的な活用法や視聴覚教材の作成方法等についても理解を深める。</p>			
授業計画			
第1回： 授業ガイダンス			
第2回： 教育の方法と技術の意義			
第3回： 子どもの発達段階と教育			
第4回： 学びの連続性と教育方法① 育ちと学びを繋ぐ			
第5回： 学びの連続性と教育方法② 幼稚園におけるアプローチカリキュラムの実践例			
第6回： 学びの連続性と教育方法③ 小学校におけるスタートカリキュラムの実践例			
第7回： 学びの連続性と教育方法④ 接続期カリキュラムの実践例			
第8回： 小学校生活科の授業について ①生活科の歴史と目標			
第9回： 小学校生活科の授業について ②幼少保連携を活用した授業			
第10回： 情報化社会と教育① 現代の子どもをとりまく情報環境			
第11回： 情報化社会と教育② 情報機器を活用した授業実践事例			
第12回： 個に応じた教育のあり方			
第13回： 遊びを通じた教育と生きる力を育む教育			
第14回： 特別の教科道徳と教育方法論			
第15回： 授業の振り返りとまとめ、確認試験			
テキスト			
学習指導要領解説「生活編」 (平成29年3月告示 文部科学省)			
参考書・参考資料等			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) ・ 保育所保育指針 (平成29年3月告示 厚生労働省) 			
学生に対する評価			
授業への取り組み (30パーセント) 課題レポート (30%) 確認試験 (40%)			

授業科目名： 保育実習 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 4単位 (実習)	担当教員名： 小林根・古谷淳・清水かおり 配当学年：二部2年・3年 担当形態：複数
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育実習（「保育実習 I」）		
担当教員の実務経験	古谷：保育士（保育所・4年） 清水：幼稚園教諭（幼稚園・6年）、保育士・保育教諭（保育所・7年）		
授業の到達目標及びテーマ 1、保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2、観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3、既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 4、保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。			
授業の概要 ・保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、認可保育所や児童福祉施設等において観察・参加実習を行う。 ・保育所での実習を通じて、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能および保育士の職務について実践的に学ぶ。 ・児童福祉施設等での実習を通じて、施設保育士としての確かな知識を修得する。他職員との連携や生活環境の整備について実践を通して学ぶ。			
授業計画 以下の内容について、保育所、児童福祉施設等でそれぞれおよそ11日間の実習を行う。教員が訪問指導を行い、スーパービジョンを実施する。 <ol style="list-style-type: none"> 保育所、施設の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> 保育所、施設の生活と一日の流れ 保育所、施設の役割と機能 利用者児の理解 <ol style="list-style-type: none"> 利用者児の観察とその記録 個々の状態に応じた支援や関わり 保育内容、養護内容・生活環境 <ol style="list-style-type: none"> 計画に基づく活動や支援 利用者児の心身状態に応じた対応 利用者児の活動と生活環境 健康管理と安全対策の理解 計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> 支援計画の理解と活用 記録に基づく省察・自己評価 専門職としての保育士と役割と倫理 <ol style="list-style-type: none"> 保育士の業務 職員間の役割分担や連携 保育士の役割と職業倫理 			
テキスト 「幼稚園・保育所・認定子ども園実習パーフェクトガイド」 小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子 わかば社 「保育の基本用語」長島和代編 わかば社 「施設実習ガイド」 田中和則監修 加藤洋子・一瀬早百合・飯塚美穂子 編著 ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
学生に対する評価 実習先の評価に基づく実習指導部の評価 40% 実習日誌などの評価 60%			

授業科目名： 保育実習指導 I	学則に定める必修/選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (演習)	担当教員名： 小林根・古谷淳・清水かおり
			配当学年：二部2年・3年
			担当形態：複数
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育実習（「保育実習指導 I」）		
担当教員の実務経験	古谷：保育士（保育所・4年） 清水：幼稚園教諭（幼稚園・6年）、保育士・保育教諭（保育所・7年）		
授業の到達目標及びテーマ ・保育所と児童福祉施設等の実習の目的を明確にし、効果的に実習が行われるために必要な事柄を身につけ、保育者としての資質を高める。 ・社会人として必要な素養を培い、実習を通して人として大きく成長できる素地を養う。			
授業の概要 ・各実習の意義や目的、心得、反省点などを具体的に取り上げ、学習を進める。 ・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。			
【保育所実習の内容】 第1回：保育所の役割と機能 第2回：保育所保育指針に基づく保育の展開 第3回：子どもの観察とその記録による理解 第4回：子どもの発達過程の理解 第5回：子どもへの援助や関わり 第6回：保育の計画に基づく保育内容 第7回：子どもの発達過程に応じた保育内容 第8回：子どもの生活や遊びと保育環境 第9回：子どもの健康と安全 第10回：全体的な計画と指導計画 第11回：記録に基づく省察、評価について 第12回：専門職としての保育士の業務内容 第13回：職員間の役割分担や連携・協働 第14回：保育士の役割と職業倫理 第15回：実習の振り返りとこれからの自己課題について 【児童福祉施設等（保育所以外）における実習内容】 第16回：施設における子どもの生活と保育士の支援や関わり 第17回：施設の役割と機能 第18回：子どもの観察とその記録による理解 第19回：個々の状態に応じた支援の理解 第20回：個別支援計画の理解 第21回：保育の計画に基づく保育内容 第22回：施設における子どもの生活と環境 第23回：子どもの心身の状態に応じた生活と対応 第24回：子どもの活動と環境 第25回：施設における利用者の健康管理、安全対策の理解 第26回：記録に基づく省察、評価について 第27回：専門職としての保育士の業務内容 第28回：職員間の役割分担や連携・協働 第29回：保育士の役割と職業倫理 第30回：実習の振り返りとこれからの自己課題について			
テキスト 「幼稚園・保育所・認定子ども園実習パーフェクトガイド」 小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子 わかば社 「保育の基本用語」長島和代編 わかば社 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 「施設実習ガイド」 田中和則監修 加藤洋子・一瀬早百合・飯塚美穂子 編著 ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価 課題提出60% 受講態度40%			

授業科目名： 保育実習Ⅱ	学則に定める必修／選択の別 選択科目	単位数： 2単位 (実習)	担当教員名： 古谷淳・清水かおり
			配当学年：二部3年
			担当形態：複数
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育実習（「保育実習Ⅱ」）		
担当教員の実務経験	古谷：保育士（保育所・4年） 清水：幼稚園教諭（幼稚園・6年）、保育士・保育教諭（保育所・7年）		
授業の到達目標及びテーマ 1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 保育士としての自己の課題を明確化する。			
授業の概要 ・保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、認可保育所において実習を行う。 ・保育課程に基づく指導計画を作成し、責任実習を行う。責任実習終了後は省察・評価を行い、子どもの実態を踏まえた指導計画のありかたを学ぶ。 ・保育所での実習を通じて乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能および保育士の職務について実践的に学ぶ。 ・保育所での実習を通じて、保育士の援助の意図や環境構成について学ぶ。 ・他職員との連携や保育所における保護者支援について実践を通して学ぶ。			
授業計画 以下の内容について、保育所でおよそ11日間の実習を行う。 教員が訪問指導を行い、スーパービジョンを実施する。 <ol style="list-style-type: none"> 保育所、施設の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> 保育所の生活と一日の流れ 保育所の役割と機能 乳幼児の理解 <ol style="list-style-type: none"> 乳幼児の観察とその記録 個々の状態に応じた支援や関わり 保育内容、養護内容・生活環境 <ol style="list-style-type: none"> 計画に基づく活動や支援 乳幼児の心身状態に応じた対応 乳幼児の活動と生活環境 健康管理と安全対策の理解 計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> 支援計画の理解と活用 記録に基づく省察・自己評価 専門職としての保育士と役割と倫理 <ol style="list-style-type: none"> 保育士の業務 職員間の役割分担や連携 保育士の役割と職業倫理 			
テキスト 「幼稚園・保育所・認定子ども園実習パーフェクトガイド」 小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子 わかば社			
参考書・参考資料等 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 幼稚園教育要領 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領			
学生に対する評価 実習先の評価に基づく実習指導部の評価 40% 実習日誌などの評価 60%			

授業科目名： 保育実習指導Ⅱ	学則に定める必修／選択の別 選択科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名：古谷淳
			配当学年：二部3年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育実習（「保育実習指導Ⅱ」）		
担当教員の実務経験	古谷：保育士（保育所・4年）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>保育所における実習。保育実習Ⅰにおいて学んだことを基礎として、実際に主体的に保育所の保育を実践する。保育士の責務について理解を深め、必要な資質・能力・技術を習得する。家庭と地域の生活実態に触れて、子どもや家庭の福祉ニーズに対する理解力、判断力や支援能力、カウンセリング力を養う。</p> <p>子どもが抱えている子ども自身や家庭の課題を理解し、対応方法を学ぶ。子どもの最善の利益と保育士の職業倫理について学ぶ。指導保育士の助言の下、自ら指導計画を立案、実践する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>保育所保育実習に向け、実習の目的を明らかにし、目標、課題を持って取り組めるように準備する。保育所の役割、保育士の仕事等を知り、多様な保育ニーズに対応できる保育者としての心構えが持てるように学習を進める。又、子どもと共に生活し遊ぶ中で、子どもの心を理解し、関わり方、援助の仕方を知ることが出来るように、保育観察のポイント・記録のとり方を学ぶ。実習を振り返り今後の自己課題を認識していく。</p>			
<p>【保育所実習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所実習Ⅰの振り返り・Ⅱの目標設定、身上書、はじまりにあたって、巡回カルテ" 2. 保育実習オリエンテーション 3. 保育所の生活と遊び（DVD視聴） 4. 責任実習・部分実習について学ぶ 5. 指導案の書き方① 部分実習の指導案について学ぶ 6. 指導案の書き方② 責任実習の指導案について学ぶ 7. 指導案の書き方③ 指導案の環境構成について 8. 指導案の書き方④ 指導案返却及び解説 9. 日誌の書き方①（園の概要復習） 10. 日誌の書き方②（ねらいに沿った振り返りの書き方） 11. 日誌の書き方③（エピソード記録の書き方） 12. 送り出し、実習終了後の流れについて 13. 保育所実習Ⅱ 振り返り（個人） 14. 保育所実習Ⅱ 振り返り（ゼミ共有） 15. 保育所実習Ⅱ 振り返り（ゼミ発表） 			
<p>テキスト</p> <p>「幼稚園・保育所・認定子ども園実習パーフェクトガイド」 小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子 わかば社</p> <p>「保育の基本用語」長島和代編 わかば社</p> <p>保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>課題提出60% 受講態度40%</p>			